

プロの占い師が密かに使う

一巻

占い心理学 恋愛・結婚編



人の構造を知らないと占いは使えない



Fortune Soft

目次 占い心理学 恋愛・結婚編 一巻

はじめに 9

占い師には理論を学んでもなれないワケ 12

人類の燔祭 14

世の中の人々は「仕事」よりも「恋愛」「結婚」に意識が向いている 16

「あなたの悩みが間違っている!」これが奇法だ 20

■占いの「正法」と「奇法」とは? 20

■四柱推命での奇法 21

■二分思考の恐ろしさ 22

■どんな場面でも「凶」を探してしまう脳 24

1. 「問題を解決してあげよう」はNG 26
2. 「恐怖に支配された脳が凶を探し続ける」 29
3. 「人生にマニュアルはない」 38

「恋愛・結婚・不倫」の占い心理学的解決法 43

・男女の相性をみるときの重要なポイント 45

・「私を捨てる人はどんな人？」への四柱推命的応答話法 47

・「不倫にはまったらどうするか？」という相談へのアドバイス 53

・自分の内面に気がつくには？ 56

・悩む人の「考える」とは錯覚にすぎない 58

・十干別「不倫にはまったらどうするか？」 四柱推命的応答話法 59

■「あの人は、いい人ですかどうですか？」の占い心理学的解決法 62

■「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」の占い心理学的解決法 64

「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」 四柱推命的応答話法 66

■「略奪愛は罪なのか？」の占い心理学的解決法 70

■「前世と現世仕事と結婚」の占い心理学的解決法 75

■「この恋に飛び込んでもいいですか？」という相談 75

「占いビジネス」「結婚」「セックス」のお悩み解決
115

- 四柱推命的応答話法 77
- 「恋によって何を学ぶのか？」 79
- 「結婚生活より仕事を優先させると？」 四柱推命的応答話法 83
- 「結婚生活より仕事を優先させると？」 ホロスコープ的応答話法 89
- 占い専門家がはまるワナ 92
- 「前世はなにをしていたか？」 四柱推命的応答話法 96
- 「前世はなにをしていたか？」 四柱推命的十干別応答話法 101
- 「前世はなにをしていたか？」 四柱推命的十二運星別応答話法 103
- 「どうしたら結婚できるか？」 四柱推命的応答話法 111

- 「どうすれば占いビジネスで儲けることができますか？」 115
- 「いつ結婚できますか？」 四柱推命的応答話法 118
- 「あなたが独身でいた理由は？」の占い心理学的解決法 120
 - ・ 「自分が好きになれない。自信が持てない」の四柱推命的応答話法 122
- 「異性に心を開くことができない」 四柱推命的応答話法 127
- 「片思いの状態から脱出したい」 四柱推命的応答話法 130
- 「異性からあなたはどう思われているか？」 四柱推命的応答話法 135
- 「セックスの相性」 占い心理学的解決法 142
 - ・ 肉体の欲求を伝えられない女性の悩みを解決するには？ 143
 - ・ セックスの相性の根源は心情的なもの 148
 - ・ 女性が喜ばないまぐわいはしないほうがよい 149
- 「人生の分かれ道」 占い心理学的解決法 152

フォーチュンソフトの占い師向け プロ向け
Windows対応ソフトウェアの紹介 156

新四柱推命プロ版Ver10 東洋医学バンドルセット 157

西洋・インド・七星占星学プロ版 マヤ占星術バンドルセット 159

家相・手相・姓名判断プロ版 奇門遁甲バンドルパック 162

星平会海プロ版
素質心理学バンドルパック

168

占い心理学 恋愛・結婚編

はじめに

占いに関心をもっている皆さんは、おそらくは、今の自分に納得がしていないからでしょう。もっと自分を知りたい、もっと相手を知りたい、そしてもっと楽しく生きたい、もっと人間関係を良くしたい、こんな思いがあるのではないのでしょうか。実際に、運命学を長年学んでいるのに、人生がちつとも良くならないのはなぜ？占いを勉強した上で、こういう思いをお持ちの方も多いいと思います。

運命とか運勢、そういう言葉に引かれて運命学（四柱推命、紫微斗数推命、

ホロスコープ、気学、タロット、断易、周易などを学び始めたものの生活ぶりは一向によくならない。運命学というからには、恋人の欲しい人には恋人を、お金の欲しい人にはお金、結婚したい人には結婚相手、仕事の欲しい人には仕事、それぞれの人が望むものを得るために、各人の現状を一步でも前進させるものであつて欲しいものです。

残念ながら現状市販されている書籍を読んでも、運が良くなることはないでしょう。なぜでしょう？占いつて人を診断する道具でしょう。では人つて、そもそもどんなふうに設計されているのか？人の構造つてどんなふうになっているのか？心と体の関係はどうなっているのか？こんな根本的なことを学ばないで運命学の理論を学習しても、効果があるわけではないのです。

そんな中、誕生した「占い心理学」は長い歴史が積み重なつた占いの世界を、新しい方向へ変えていくものかもしれません。別名「**奇法運命学**」と名付け

られたこの内容は、運命学をどう使い、どう発想し行動するのか、今までの
既成概念の枠の中でしか発想できない多くの人々に与えられた、枠の外から
の発想であります。今回のこの書籍が、皆様の占いライフと皆様の周りの方々
の生活を豊かにするものとなり、皆様の心を満足させる、そういう光となっ
てくれることを願ってやみません。

フォーチュンソフト 代表 天野 雲海

占い師には理論を学んでもなれないワケ

占いの理論を学んでも占い師にはなれませんし、占いビジネスもできるようにはなりません。剣道ができるようになるために、剣道の書籍を百冊読んでもできないのと同じです。占いは、「道」なのです。剣道、柔道、茶道、と同じように実践して積み上げて行くしかありません。では、皆さんはまだ実践していないのでしょうか？いいえ、もう十分に実践しているのです。今まで生きてきて、苦しいこと、悲しいこと、うれしいこと、いろいろな困難を越えてきたでしょう。それがそのまま、活用できるからです。あとは、ちょっとした考え方のコツをつかむだけです、これがなかなか難しいのです。

人って今までの経験で判断してしまう生き物ですから、「思い込み」「世間体」「一般常識」といったものにとらわれているからです。

人には誰でも、どんな人にも “知恵” とか “叡智” といわれる直観的な能力が備わっていると いわれています。ところが常識とか習慣、教育されてきた内容などに縛られて自由性を失ってしまった人間は（ねば、べきの世界にどっぷり浸ってしまうこと）これが自分の中にあることを忘れてしまおうというのです。このことをサンスクリット語では「パーニヤパラミタ」と言われています。

「・・・？」どこかで聞き覚えのある響きではありませんか？、実はこれが、インドから中国を渡って日本に来て「般若心経」になったというのです。そして原語「パーニヤパラミタ」を直訳すると『自分の中に既に持っている、内在された叡智』という意味になるそうです。つまり「幸せになる答えは、全部、自分の中にあるよ・・・」というなのです。

本書では、あらゆるジャンルにわたって、非常識で非道徳的な観点から読

者の脳をゆさぶるように工夫してあります。その結果、皆さんの直観が啓発されることを望みます。直観が啓発されたら、占いの理論は少し学ぶだけで、プロの占い師以上の洞察力が習得できます。

人類の燔祭

昨今は旧約聖書とホロスコープ（占星の天宮図）を勉強しないと世界の相場はわからない。為替、金利、株価先物の相場に取り組んでいるディーラーの関心はやはりホロスコープである。天宮図は次として、聖書は読んで面白いくところと煩雑なところと、理解しにくいところが多い。しかし聖書の背景や、歴史の流れを解説する書はきわめて豊富である。相場世界は石油という問題にふりまわされる。石油問題は中東情勢に左右される。中東を知ろうと思えばアブラハムを知らなければならぬ。

アブラハムといえは聖書の圧巻である。神はアブラハムを試みて彼に言った。『アブラハムよ』『ここにおります』『あなたの愛するひとり息子のイサクを連れてモリヤの地に行き、私の示す山で彼を燔祭として捧げなさい』燔祭とは祭壇で神に供えるものを焼いて二ツに裂くことである。アブラハムは、たきぎをその子イサクに背負わせて二人一緒にモリヤに行った。アブラハムの子イサク。イサクの子ヤコブ。ヤコブに十二人の子。この十二人の子がイスラエル十二支族の起源である。十二支族は二ツにわかれる。南王国のユダ、ベニヤミン（南）の二族がユダヤ王国を築く。あとの十支族（北王国）はイスラエル王国を築く。北と南と二ツに分裂するのは神に供え物を捧げるとき、燔祭は必ず二ツに裂かれなければならないのと同じことである。人類は南北にわかれ対立し、東西に分かれ対立してきた。

現代のユダヤ人はユダヤ王国に属する支族の子孫で、ローマ帝国以来、国を

失い二千年にわたり放浪してきた。そこから追われたアラブ諸国民は、回教と、ユダヤ教の違いや居住権、生存権の問題などで戦争をくりひろげる。中東諸国の動きを歴史的に理解するには、アブラハム、モーゼ（脱エジプト記）までさかのぼらなければならない。

【『復刻先物の世界相場開眼』 鎬木繁著 パンローリング(株) より転載】

世の中の人々は「仕事」よりも「恋愛」「結婚」に意識が向いている

インターネットの検索エンジンで一ヶ月の間に、どのくらいの人数が、どういうキーワードで何を検索しているかというグーグルのデータがあります。このデータから得られる数値をみると、世の中の人が無心に関心を持っている

のか一目瞭然となります。この事例を紹介していきます。

「恋愛」というキーワードで検索した人は、一ヶ月何人いるでしょうか？
百八十万人了。 「性格」というキーワードで検索した人は、何人でしょうか？
八十万人了。 「恋人」というキーワードで検索した人は、何人でしょうか？
百万人了。 「彼女」というキーワードで検索した人は何人でしょうか？
百八十万人了。 「告白」というキーワードで検索した人は何人でしょうか？
六十八万人了。 「相性」というキーワードで検索した人は何人でしょうか？
五十五万人了。 ここで「四柱推命相性」というキーワードも結構人気があります
ますが、こういう「相性」を含めると約七十万くらいまで数字が上がります。
さて、では「結婚」というキーワードで検索した人は何人いるでしょうか？
実は八百万人了。 毎月八百万人の人が「結婚」というキーワードを入力し
ているのです。 断トツに多いです。 その次が「恋愛」の百八十万人了。

世の中の人々は仕事で頭を悩ませるといっても、結婚や恋愛の悩みを解決するほうが、より大きな関心事なのです。ですから、ここに焦点を当ててビジネスをしなければいけません。世の中の多くの人が欲しがっているものが、結婚と恋愛の情報だからです。ですから結婚や恋愛にターゲットを合わせなければ占いビジネスは儲かりません。ただし、恋愛や結婚も根本的には人間関係です。占いかウンセラーは「人間関係をどうしたらいいの？」という観点からアドバイスをしていけばいいのです。人間関係というものは、仕事でも男女間でも同じです。恋愛関係で悩む人は、仕事の人間関係でも悩んでいます。逆に仕事の人間関係で悩んでいる人は、恋愛関係でも悩んでいます。人間関係は物凄くうまいけど、男女の人間関係はうまくいかない、という人は実際はあまりいません。

フォーチュンソフト社では、日本人とフィリピン人との国際結婚の斡旋もやっていたのですが、結婚を希望する日本の男性に「この女性は非常に家柄もいいし、気立てもいい、よく働く、女房としては絶対に安全パイで、間違いない人だからお勧めしますよ」と紹介しても、ほとんどの場合が結婚しません。なんとなく、ピンとこないので決断できないのでしよう。そして結局、家柄も悪く、貧乏で、結婚後に仕送りをしないといけないような人と結婚してしまいます。そんな現実を何組も目の当たりにしてくると、結婚というもののは合理的な面だけを考えてできるものではないことがわかります。ですから、占い理論で恋愛と結婚を解説する以上に、心理学的な観点から占いを使わないと実際とあわないのです。

「あなたの悩みが間違っている!」これが奇法だ

■占いの「正法」と「奇法」とは?

「奇法」とは一体何でしょうか?それは、正法に対する反対の言葉です。では、正法とは何でしょうか?それは、「これまでの古典的な占い」のことをいいます。例えば四柱推命では、まず格局や用神を決めて、そこから命式や流年の運の吉凶を決定するのが一般的な鑑定法ですが、このような古典的な運命学の使い方を総称して「正法」といいます。今までの運命学全般についていえることですが、正法というのは、最終的に吉と凶を分けることを前提に発明された理論なのです。「占い」といえば、大吉、吉、大凶などのように、はっきり吉と凶に分かれているのが当たり前、というイメージの方が多いと思

ますが、そういうオーソドックスなスタイルが正法の占いです。

吉と凶をはっきり分けるスタイルが正法ですが、実際の占いの現場では、相談を持ちかけられ、相談者の抱えている様々な悩みを解決するときに、往々にして正法では役に立たないことがあります。そこで、必要となってくるのが吉凶を越えて使う「奇法」という手法なのです。そして実は、正法と奇法とは表裏一体のもので、占術家は両方を使いこなす必要があるのです。今回解説していく奇法大全とは、正法（古典的な占い）を卒業して、吉とか凶を知ったとしても、その通りにはいかなしい、人生うまくいかないことを経験した人が使うものなのです。ですから「奇法」は、運命学の指導員を目指す人には絶対に必要となる手法といえます。

■四柱推命での奇法

詳しく説明すると、例えば四柱推命では、まず生年月日から命式出しします。そして「命式がこうだから、あなたは何々です」という発想で鑑定をすすめていきますが、これがオーソドックスな正法の鑑定の手順です。ところが奇法では、生年月日を必要としません。なぜなら**人の構造**を知っていると答えは決まっているからです。例えば何かの問題があったとすると、その瞬間、答えはすでに決まっているのです。これが奇法の発想です。ですから、占い師とか占いカウンセラー、電話占い師など、いわゆる占い産業で仕事をしている人は、**実は正法を知らなくても、奇法さえ知っておけば商売が成り立つのです。**占いの相談にやってくる人は、各人の個性が違っていても、生年月日が違っていても、万人に共通する答えがある。これが奇法なのです。

■二分思考の恐ろしさ

実際の占いの現場では、従来の吉とか凶を判定する正法だけを使っているも、「お客さんが幸せにならない」という現実があります。占い師に「凶です」と言われれば、お客さんの波動はやつぱりとガクッと落ちます。その瞬間、お客さんの運が下がってしまいます。ところが、逆に「吉です」と言われた場合でも、大抵のお客さんは「吉とは言われたけど、吉の中にも良いことと悪いことあるんじゃないのか？」と悲観的な発想をしてしまうのです。「吉の中にも凶がないか？」「そうは言っても、なんか悪いことあるんじゃないか？」と吉の中に凶を探そうとするのです。そこで「いやいや、大丈夫ですよ。」と言ったとしても、お客さんは、さらに、その言葉の中に吉と凶を探そうとします。これは、お客さんの心の中で感情を支配している何物かが、いつまでたっても吉と凶を探そうとさせるのです。

■どんな場面でも「凶」を探してしまう脳

このことを「物事を分けて考える発想」といいます。ここは非常に重要なポイントなのですが、この二つに分ける発想のことを「二分思考」といいます。この二分思考にどっふり浸かっている相談者と対面している限り、その人の感情はどこまで行っても「吉と凶を分けたい、分けたい、分けたい・・・」となっているのです。終わりがありません。どんなに良いことを言われても、二分思考の人は必ず良いことの中に悪いことを発見しようとします。脳がそうなってしまうているのです。脳の回路がそうなってしまうているのです。ですから二分思考の人は、どこまでいっても「百分の吉」を探そうとします。ところが現実には「百分の吉」の人生なんてないのです。結論をはっきり言いますと、吉と凶を分ける二分思考でいる限り、その人は開運できません。知らず知らずのうちに、不安の感情に心がコントロールされている状態なので、

何をどう頑張っても状況は良くなりません。

そこで、これとは反対の方向へ導いていくのが奇法です。人って、何も考えないでいると物事を悪い方向に考えて心配してしまうように設計されているのです。ですから、奇法は最初から全吉であるべきという考えを前提としています。お客さんは一時間数千円とか、数万円払って、わざわざ相談に来るのですから、占い師はお客さんの波動を上げて帰してあげないといけません。「全吉」を前提として吉凶を分けられない、それが奇法なのです。全てを吉に理解するには強い意志が必要です。強い意志がないと間違いなく、否定的になり悲観的になり悪い考えの中にはまってしまって脱出できなくなります。テレビも新聞も書籍も、否定的な波動を出しています。もしかしたら皆さんの上司や経営者までも否定的で悲観的な波動をもっているかもしれない。だから戦う強い意志が必要です。

■運命学を使うための重要な三点

続いて、ほとんどの人が気づいてない、運命学を使う場合に重要な三点について、説明していきます。まず始めは占い師など、相談を受ける側の人に必要な心構えについて説明しますが、これが一番重要なポイントとなります。

1. 「問題を解決してあげよう」はNG

意外に思う方も多いと思いますが、相談を受ける側は、相談者に対して「問題を解決してあげる」という気持ちを持つてはいけません。ベテラン占い師

など、今まで多くの人から相談を受けた人は気がついていますが、お客さんという人達は、感情と思考が整理されていない状態で相談にやってきます。実は、悩みを抱えているお客さんというのは、ほとんどの場合、表面的なところばかりが気になって、「より深くにある問題」が分かってないのです。よく日本の教育の特徴として、子供のころから問題自体を考える脳の訓練が行われない欠点が指摘されます。小学生の頃から、正解がある問題ばかりを解く練習を繰り返しているだけなのです。ですから答えのない問題を解く機会はありませんし、問題を自分でつくることもありません。その結果、日本人の脳は「問題を明確にして特定する」ことに慣れていません。実は、それがお客さんの持っている「悩み」の本当の姿なのです。ということは、逆に問題さえ明確にしてあげれば、悩みの半分は自分で解決できるのです。この「悩みとは何か?」とは「問題がわからない?」と同じことなのです。「問題がわかっ

てない」というのがお客さんの悩みの本質部分なのです。

・占術家は、相談者自身が問題解決の方法を語るよう導く

ですから占いカウンセラーなど悩みを聞く側の人は、お客さんの問題を解決してあげようと思って「あなたの抱えている問題はなんですか？」というような質問をしてはいけません。相談者は、問題自体がわかってないのですから、ストレートに聞いても駄目なのです。お客さんは本当の根っこの部分を自覚してないので、その口からは本当の問題からずれた答えしか出てきません。そのため占い師はテクニクとして、まず世間話から入っていかなければいけません。繰り返しになりますが、相談者本人が、問題点を自覚してないのが「悩み」の正体なのです。ですから悩んでいる人から相談を受ける場合、「あなたの問題は○○○でしょ」という部分を発見することに、鑑定の

エネルギーの九十パーセントを使って下さい。占い師でもカウンセラーでも、相談される側の全ての人間は、ほとんどのエネルギーをそこに集中させなければいけません。

次に「占い産業とは一体何か？」について説明します。占い産業とは、情報を提供する産業です。生年月日からお客様の命式を出して、「ああですよ、こうですよ」と鑑定していきます。お客さんは、自分が知らない情報を求めてやってくるのです。占い以外の情報産業全般にもいえることですが、『お客様の頭には、お客さん自身が欲しいと思っている情報しか入ってこない』という事実があります。

2. 「恐怖に支配された脳が凶を探し続ける」

普段の生活の中で、毎日いろんな情報が入ってきます。新聞、テレビ、ニュース、評論家の番組、宗教の教えなど、占いもその一つです。ところが、どんなものを見たり聞いたりしても、結局は「自分が欲しい」と思っている情報しか頭に入ってこないのです。例えば映画の感想も人によって全然違いますし、本を読んでも感想は違ってきます。これは各個人が「欲しい」と思っている情報しか、その人の脳の中に入ってきてないからそうなるのです。そして、このことは占い師にとって非常に重要なポイントなのです。なぜかという、悩んでいる人とは「自分こんな情報が欲しい」ということ自体に気づいてない人だからです。また、人の心は不安や恐怖の気持ちに支配されっていると、不安と恐怖を発生させる情報が優先的に脳の中に入ってくるようになっていきます。ですから自分自身の心と同じ波動を持った情報しか入ってきません。そういう仕組みになっています。

不安や恐怖に支配されている人や、常におびえている人は、目の前にどんなに良い情報があったとしても、無意識に消去されてしまいます。ところが逆に、何があっても、安心・くつろぎの気持ちで生きている人には、安心・くつろぎの情報が入ってくるのです。ですから前者から後者を見ると、「感覚が鋭い」とか「感性が豊かな人」というふうに映るはずですよ。

占い師のところに悩み相談にやってくる人は、必ずといっていいほど、心が不安と恐怖でいっぱいの人です。心が不安と恐怖でいっぱいだから、その人の脳は基本的に、不安と恐怖の情報しか吸収しようとしません。ですから凶になる原因を探し続けるのです。占い以外の分野にも同じ現象があります。例えば経済の場合、新聞は「円高だから日本の会社は赤字になる」とか「製造業で自動車や家電を輸出する会社が大変」などと書きたてて、不安や恐怖感

をおおります。同じように「国債発行残高が八百兆円越えた」とか「借金をわれわれの子孫に押し付けるな」とか「国家破綻する」「日本が破綻する」と言っている学者やアナリストもいます。西暦二千年ごろにはノストラダムスの大予言が流行りました。「西暦二千年になると何か起こる」という不安と恐怖をおおりました。

同様に宗教などで、よく使われるテクニクの一つに「水子の霊」があります。流産した子供や、降ろした子供がいる場合「だからあなたは・・・」というたぐいの手法で不安と恐怖をおおるのです。靈感商法やっている人はこういうテクニクをよく使います。他にも「先祖が救われてない」とか「先祖が苦しんでいます」と吹き込むことで不安と恐怖をおおります。ところが水子や先祖の話も、実際はウソなのです。よく考えてみて下さい。先祖を救え

るのは一体誰でしょうか？例えば、皆さんの人生に責任を持てるのは誰か？と同じ質問です。皆さんのお父さんお母さんが、あなた自身の人生に責任持てますか？皆さんの子供が、皆さんの人生に責任持てますか？誰も他人の人生に責任は持てません。自分の魂は自分でしか責任をもてないのです。ということは、先祖の魂は先祖本人にしか責任が持てないのです。子孫は関与できないのです。

もし仮に先祖が救われてない、地獄に行っているとしても、先祖は生きているときに悪いことをして勉強のために地獄へ行ってるわけですから、これを邪魔してはいけません。そのままがいいのです。それを救おうというのはただの傲慢です。そういうことを言って不安と恐怖をおおっているのです。実は占いも同じです。一般的な占いは吉と凶を分けますが、この理論そのもの

が人を不安にしています。「私は運が良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」
「この結婚は良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」「来年は良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」そんな質問ばかりです。吉と凶を分けるから、不安と恐怖におちいつてしまうのです。

・五行理論に潜む危険な二分思考

また運命学には、木火土金水の五行を使う相生・相剋という理論があります。木が火に相生して土になり、金になり、水になりまた木となる。この流れが相生です。そして相生が吉といえます。木が燃えて、土になって金に固まって水を生じて水がまた木を育成する。この流れがぐるぐる回ってきれいだから、良いですよということ吉の関係となります。逆に、木は金から剋されて、木は土を剋して、火は金を剋して、土は水を剋す、こういう関係を相剋といっ

て、これを凶とします。これも五行の相生・相剋といって運命学の基本中の基本ですが、これも実際のところ、不安と恐怖を生じさせる原理でもあります。

このあたりをよく理解していないと、不安と恐怖に洗脳された人は、悪い奴からみると非常に支配しやすいのです。

「私は罪人である」（私はダメ人間だ）という「思い」は、自分に対する自信（自己信頼）を極端に弱めるので、自分自信の感情や思いに自信が持てなくなるのです。その結果として自分の判断にも自信が持てなくなるのです。「こっちがいいのか？あっちがいいのか？、こっちが安全か？あっちが得か？」こういった発想です。これが恐ろしいのは、恐怖に意識が集中してしまうと、無意識のうちに、しかも瞬間的に一連の発想の結果を招いてしまうところです。ちよっとうかがった言い方をしますと、国とか、国の王様的な立場の人から

すると、国民を不安と恐怖の状態にしておけばコントロールしやすいのです。何かに依存したい気持ちがとても強くなるのでコントロールしやすくなるのです。詐欺に引っかかる人も同じです。「騙されるのは、騙されたほうが悪い」こんな毒舌を吐く人もいますが、実はこれは本当のことなのです。依存心があると、いいようにやられてしまいます。

・キリスト教の危険な側面

次にキリスト教的な発想について説明します。キリスト教には、全ての人間は生まれながらに罪を背負っているという「原罪」という発想があります。実は、もともとイエス・キリストはこういうことを言っていたわけではありません。同様にイエス・キリストが人類の罪を背負って死んだというのもウソなのです。それでは原罪を主張することで、一体誰が得をするのでしょうか？

「人間はオギャーと産まれた瞬間に罪を背負ってきた存在である」と言つて、産まれた瞬間から罪の教育をすると、人間は死ぬまで不安と恐怖の中で生きることになります。安心とくつろぎの発想はありません。そういう発想ができなくなりません。生涯不安と恐怖に脅え、びくびく生きるのです。するとやはり、自分で判断し行動する力が抜き取られてしまい、支配しやすい人間となつてしまうのです。

また、よくロシア人は信仰が篤いとテレビなどで言いますが、本当は信仰が篤いのではなく、ロシア人が不安と恐怖で一杯な民族であることの裏返しなのです。ロシア人はロシア正教によって、自分が罪人であることを徹底的に洗脳されているので、心が不安と恐怖で一杯なのです。ロシアは代々皇帝という王様が大衆を独裁政治で支配してきましたが、これは国民を不安と恐怖に洗脳しておけば独裁政治をしやすいのです。つまり、国民を支配するた

めにキリスト教が使われたのです。

3. 「人生にマニュアルはない」

「坂の上の雲」がNHKのドラマになって、日清・日露戦争で活躍した秋山兄弟の話が非常に有名になりました。弟の方が、秋山真之という愛媛県松山市出身の海軍の軍人参謀ですが、この人の戦略のおかげで日本は日露戦争に大勝利しました。この秋山真之が『兵理を会得しようとするなら、戦史の研究をせよ』といっています。敵の陣形、味方の陣形がどう動いて、どっちが勝ったかということが戦史に詳しく残っているのです、そこから戦い方を会得しなさいということです。歴史を勉強しろと言い残しています。この言葉の「兵理」のところを「運命学」、「戦史」のところを「自分の歴史」に置き換えると『運

命学を会得しようとするなら、自分の歴史の研究せよ』となります。オギャーと産まれてからの、自分の歴史を研究するのが一番の運命学の勉強になるのです。教官から話しを聞くと、意識が啓発され知識も増えます。DVD講座や本を読んで勉強することで意識が啓発され知識も増えます。ただし力は増えません。

秋山真之は「弟子が教官から話しを聞いただけでは、知識は増えても、力にはならない」と言っています。それでは、肝心の「力」の部分を増やすにはどうすればいいのでしょうか？それに対して真之は「戦史を自分で研究し、自分で考え、自分で直して使え」と言うのです。つまり、本に書いてあるとおりとか、教官から教えられたそのままでは使いものにならないと言っているのです。最終的には、自分流に直して使わなくては役に立たないということです。自分で研究して、自分で考えて、自分で直すことが非常に重要だと言っ

ているのです。

マニュアル教育に慣れた人が陥りやすい罠として、ある普遍的な公式（つまり変わらない公式）がどこかにあつて、それをみつけよう、学習しようという気持ちが強すぎるのが見受けられます。どこか既にあるものを発見しようという動機で取り組んでも駄目なのです。本当は自分で公式をつくっていかないと駄目なのです。自分で発見しないと通用しません。実際の場面では使えません。

昔からある日本の剣道とか柔道、茶道など「道」といわれるものが、どうやって習得されるかというと、「修・反・離」をもって道の修得ができるといわれています。これはまず教官や先生について道を修めます。つまり始めは真似

するということです。「学ぶ」ということは「真似る（まねる）」ということ、それが修めることなのです。次に、いつまでも修のままの状態では駄目で、「先生ここは違うよ」とか「教官ここは違います。自分はこう思います」というように、修めたものに対して反対する段階が必要となるのです。すなわち、反という段階で自分流が出てきます。そして最後に、完璧に師匠の教えから離れます。師匠から教わった普遍的な公式から完璧に離れて自分流をつくります。自分だけのオリジナルが出来るところまでいかないと、本当の意味で道を修得したとはいえません。運命学の修得も同様です。皆さんに離の段階まで行ってほしいと思います。

そのためフォーチュンソフト社では、今まで正法だけを長くやってきましたが、今回からは奇法をレッスンしています。それは正法と奇法の両方を修得して、フォーチュンソフトの教えを超えて自分流をつくりあげてほしいと

思うからです。

「恋愛・結婚・不倫」の占い心理学的解決法

『彼氏（または彼女）が私を選んだ理由は？』という相談。特に女性の場合「彼がなぜ、私を選んだのか理由を知りたい？」と相談に来る人がとても多いです。この質問の背後には「あの人は、遊びなの？それとも本気なの？体だけが目的？」という、相談者の「彼の動機を知りたい」という思いが隠れています。『彼氏（または彼女）との別れを防ぐにはどうしたらいいのですか？』これも非常に多い相談です。『彼氏（または彼女）の本音はどこにあるの？』つき合っている彼や彼女の本音がわからないという質問です。『彼氏（または彼女）は今後、私とどうなりたいか？』この質問も非常に多いです。

これらの悩みをみてわかるとおり、ポイントは全部「あの人の気持ち」に意識が向いていることです。そして、これらの質問の答えは決まっています。生年月日は関係ありません。「あの人の気持ちを知りたい」という欲求ですから、ということは相談者はあの人（パートナー）を信じてないのです。「あの人が信じられない」「あの人を私は信じてません」と暗に言っているのです。こういうパートナーが信じられない状態の相談者とは、自分に自信がない人なのです。ですから、こういった質問が出てきた時点で答えはあの人の気持ちから相談者の気持ちへと転換させないといけません。あの人の気持ちばかりが気になるということは「私はこう生きたい」という気持ちが弱いということなのですから。

あの人の気持ちを知りたいという質問の根っこにあるのは、実は不安と恐怖なのです。「自分がこう生きたい」という思いが無いから、心を不安と恐怖が

支配するようになってしまったのです。ですから相談者の不安と恐怖を、安心とくつろぎに転換させないといけません。では、どうするのか？ こういう相談者の質問には「じゃあ、あなたはどうかしたいの？」と質問して相談を転換させます。「相手の気持ちを知りたい」という相談者の質問に対してまともに答えても駄目なのです。相談者の土俵にのつてしまうことになるからです。相手の土俵にのつかると相談を受けた側も不安と恐怖に感染してしまいます。ですから、この質問にのつてはダメです。「あなたはどうかしたいのですか？」と質問を転換させるのです。結局「自分の魂は自分で責任を持たないと幸せになれない」ということが結論になるのです。

・男女の相性をみるとき重要なポイント

男女の相性をみるときに、とても重要になるのがお互いに『自立』してい

るかどうかということ。 「私はこういう人生を歩む」という自立した考えの持ち主であれば、やはり自立した異性を選びます。 こういう人達の関係はお互いに平等です。 依存とか頼ることがありません。 サラサラとした人間関係をつくりません。 いざというときは、彼氏や彼女がいなくても「自分の人生はこうやっていくんだ」というのが決まっているので相手に依存しません。 お互い依存しない関係。 これが「良い相性」の関係です。

あの人の気持ちを知りたいという欲求は、相談者が自立してない証拠です。相手に依存したい欲求の表れです。 そんな依存心を持った人は、必ず同じような依存心のある異性に出会います。 これが「悪い相性」なのです。 はつきりしています。 私が女性をみる場合も、そこしか注目しません。 もちろんスタイルがいい。 グラマーだ、かわいい、それも大事ですが、本当につきあうかどうかという観点からだとは違ってきました。 **精神的自立**がポイントになりま

す。すなわち、相手がいるとかいないとか、つきあうとかつきあわないは関係なく「自分はこういう人生にしたい」というものを、しっかりと持っている人であればつきあっても大丈夫です。反対に、それをはつきり持っていない女性は怖いのです。ですから、つきあいません。自立している同士が相性がいい、自立してない同士は相性が悪い。こう決めてください。ちなみに自立した人と、依存した人とのペアはありません。あつたとしても一方的な主人と奴隷の関係となります。

・「私を捨てる人はどんな人？」への四柱推命的応答話法

これも非常に多い相談ですが、これも答えは決まっています。生年月日、命式は関係ありません。相談に来たお客さんには、とにかく「自立」「安心」これを与えないといけません。まず結論から言いますが、相談への答えは「あ

あなたの長所を認めない人があなたを捨てます」です。長所と短所は同じ歯車なので、長所をひっくり返せば短所になります。この発想はとても大事です。分けない発想で二分思考ではありません。短所⇨長所という発想です。具体的に四柱推命の通変星を例に説明します。

通変星という星は四柱推命にはたくさん出てきます。どこを見るかというと月柱天干、年柱天干、月支元命でもいいし、時干でもいいです。その人をみて「ああ、この人比肩だな」と思ったら、そこを採用すればいいのです。だいたいよくあらわれているのは月か年の通変星ですが、そこにこだわって見る必要はありません。では通変星別に説明していきましょう。

比肩、「あなたは『独立したい』という思いを持ち、周囲からの干渉を嫌います。独立というのは長所であり、イコール短所なので、短所は『周囲からの干渉

を嫌うこと』になります。あなたを捨てる人とは、こういう面を認めない人ですから、あなたの独立性を認めない人、周囲から干渉されることを好む人となります。ですから、比肩のあなたを捨てるのは『あなたは私に従わないパートナーだ』と言ってくる異性です」

劫財「劫財はパワーがあるので、あなたは欲しいものを手に入れます。欲しいものを手に入れるパワーがあります。こういう長所を認めないので、慎重な異性があなたを捨てるでしょう」

食神「食神のあなたは、おおらかです。おおらかで、ゆるゆるのんびりしています。あなたを認めない人があなたを捨てるのだから、おおらかでない几帳面な異性があなたを捨てます」

傷官「傷官のあなたは非常にシャープな頭脳を持っています。シャープだから人の欠点をズバリつけてきます。それを認めないのですから、ゆるゆるとしたものを欲しがらる異性はあなたを捨てます」

偏財「偏財のあなたは社交的です。社交性があるということは、いろんな異性と積極的に触れ合いたい気持ちがあります。そういう長所を認めないのだから、『社会（つきあい）よりもプライベートを優先して』と怒る異性や『残業ばかりしてないで、友達と飲み会ばかりしてないで家に帰ってきてよ』と言う異性があなたを捨てます」

正財「正財のあなたは協調性があります。真面目で協調性があります。その

協調性を認めないのです。『そんなものよりも人生楽しくいきましょう』というタイプの快樂を追求する異性があなたを捨てます」

偏官 「偏官のあなたは改革心があります。改革の星ですから大胆です。大胆で周囲を変えていきますから、周囲を刺激します。そのため、いつも緊張しています。それを認めないのですから、異性からやさしくベタベタされたい人、こういう人はあなたを捨てます」

正官 「あなたは自分を厳しく自己コントロールします。自分を規制します。そういう自己コントロールを認めないのですから、自由気ままにいたい異性はあなたを捨てます」

偏印「あなたは面白楽しく、人生に変化を求めて刺激を求めます。単調な生活が大嫌いです。そういう長所を認めないのでから、あなたは捨てる異性は、安定を欲しがる異性です」

印綬「印綬は学問の星です。あなたは物事を深く考えて理想を追います。だから人気が出ます。それを認めないのでから、あまり物事を深く考えない異性、短慮な異性があなたを捨てます」

こう説明してあげると、お客さんの自立と安心の精神が啓発されます。「なぜ自分が捨てられるのだろうか？」という自分の短所を掘り下げる発想ではなく「ああ自分の長所を認めてあげればいいんだ、自分とは縁が無い相手なんだな」と気持ち切り替わります。お客さんに自立と安心を与えることができれば、

相談を受けた側の勝ちなのです。

・「不倫にはまったらどうするか？」という相談へのアドバイス

これを解説する前に、先ほどの秋山真之の言葉を紹介していきます。占いの占法とか原理や理論を学んでいくと、どうしても理論や手法に重きを置きがちですが、それでは失敗してしまいます。秋山真之は「腹をくくらない状態での戦略には意味がない」と言っています。これは真之がまだ学生時代に、兄の秋山好古から厳しく言われた教えです。ある時、学生時代の真之が下宿で新聞を読んでいると、お兄さんに新聞を取り上げられ「新聞なんか読むな！」と怒られました。「自分はこうやって生きる」という腹も無いのに情報はいらぬというのです。これはとてもいいことです。「自分はこう生きる」という腹ができてから、はじめて情報や戦略が活用できます。腹ができてないうちは、

何を勉強しても、どんな情報を聞いてもダメです。

人生には波がありますが、腹ができてない人は、常に「いいときだけ欲しい」という欲求でいます。ですから「悪いときを避けたい、悪いときは嫌だから避けたい、いいときばかりが欲しい」と発想します。こういうずるい発想の人は絶対に腹ができていきません。腹ができている人とは「いいことも悪いことも全部ひっくるめて、溶かして面倒みよう、責任もつていこう」という気持ちがある人です。その状態になって初めて情報や理屈が活きてきます。特に、不倫の問題を考えるとときには、この発想が重要になってきます。

まず「不倫」という言葉自体が道徳・倫理に反しているという響きがあり、漢字の並びがよくありません。これは**被害者と加害者を分ける言葉**です。不倫関係の相談に対する答えも決まっているのですが、まず不倫とか、そういうも

のが罪だという思いを捨てるのが先です。不倫は罪ではありません。罪という言葉は、キリスト教が捏造した言葉です。「人間は生まれながらに罪人である。だから教会に従え、だから宗教の指導者に従え」と言ったのがキリスト教の組織です。ところがイエス・キリスト自身はそんなことは言ってません。日本で昔から言われる、やってはいけないこととは「殺してはいけない」「盗んではいけない」「このぐらいです。日本の古事記をみても男と女の恋の物語は不倫だらけです。日本の神様は不倫しています。古事記を勉強して、日本の神様の話をしてあげて、相談者から「不倫は罪」という感覚を抜かないといけません。もし罪に対して不安があるならば、もし不安があるうちは不倫をやってはいけないません。腹ができてないからです。腹ができてないうちはやってはいけないません。

一方で、不倫が罪ではないからといって、実際に不倫を実行してハッピーになるかという点、単純にそういうものでもありません。というのも、男が成長するときには女が必要で、男は女によって成長します。逆に女は男によって成長するということがあるのですが、ここでいう「成長」とは何かということ「自分の内面に気づくこと」です。これが成長です。そしていい男いい女の第一条件とは、「自分の内面に気がついていくかどうか」なのです。つまり自分は何者か、自分の役目は何かを知っている人が、本当のいい男いい女なのです。こういう人は他人の評価を気にしません。世間体を気にしません。常識を気にしません。道徳を気にしません。自分の内面に従って生きています。だから、こういう人なら不倫をしてもOKなのです。

自分の内面に気がつくには？

では、どうすれば自分の内面に気がつくのかというと、はつきり言いますと、男と女が情を交わし、傷つけたり傷つけられたりして、ゴタゴタの人間関係の中で闘って、その最中に他人によって自分の内面に気がつくのです。ですから「どうすれば自分の内面に気がつくの？」への答えは、「人に迷惑をかけるなさい、人に迷惑をかけられなさい。そういうゴタゴタを経験して初めて自分の内面に気がつくのです。怖れずにやってみなさい」です。もし、不倫してみなければやってみなさい。それで誰かを傷つけると思うなら傷つけてみなさい。もし自分が傷つけられると思うなら傷つけられてみなさい。やれば必ず自分の内面に気がつきます。結果、自分の内面に気がついたらハッピーです。自分が何者なのか分かるのだからハッピーです。何もやらないでグジグジ、グジグジ考えている人は絶対にハッピーではありません。

悩む人の「考える」とは錯覚にすぎない

ちなみに「考える」とは何かというと、結果の整理です。やる前からグジグジ、グジグジ考えるというのは、「考える」とはいいません。そういうイジイジしている状態は考えるとはいいません。「考える」とは、やりたいことをやって、その結果を整理することが「考える」です。結果だから、自分の内面に気がつかないと「考える」とはいえませんが、「考える考える」とよく相談者はいいますが、「そんなに考えているのなら、自分の内面に既に気がつきましたよね？」ということなんです。「自分はこういう天命をもつて産まれてきました。十年間迷いなくこれをやります。周りがなんと言おうと関係ありません」という自分の内面に気がついたときに、初めて「あなたはよく考えましたね」と言えるのです。自分の使命・内面に気がつかなければ、何も考えてないと

同じなのです。

・十干別「不倫にはまったらどうするか？」 四柱推命的応答話法

甲・不倫も結婚も全部本気です。遊びとかそういうことにはなりません。全ての男女の恋愛は本気です。しかし自分の役目はいつも考えて知っているの
で、そんなにひどい結果にはなりません。

乙・甲と同じく、大体どの男女関係も本気です。遊びがありません。ただ相
手に依存しやすい傾向があります。

丙・丙も遊びでなくいつも本気です。いつも本気ですが、冷めやすい傾向が
あります。

丁ー本気とか遊びとかでなく、もともと愛情が地味です。地味とは、愛情が穏やかで、長く燃えるという感じですよ。

戊ーもともと人が大好きです。だから遊びとか本気とかありません。基本もともと人が好きですよ。

己ーもし自分がその人に必要とされていると思ってしまうと、その恋に集中します。「自分がいなければどうするんだ」という発想になりやすいタイプですよ。もちろん本気ですよ。その動機は「必要とされているから」という奉仕的な発想ですよ。

庚―好きになつたら強引に押ししていきます。

辛―もともと男女の情に通じにくいタイプです。知り合いのある辛の社長で、女性と千人寝たことを自慢する男性がいますが、その人をみていて、だからといって女性のことをよく知っているとさえ思えません。ただ寝ただけ。そういう感じで情が通じにくいのが辛です。

壬―一時的に夢中になります。本気です。しかしバーっとやって考えて、またパツと変わります。

癸―あっさりしにくいです。「人に気に入らぬ」という性格ですから、どうしても遠慮がちなところがあります。遠慮がちというのは、はっきりいっ

てドロドロなりやすいです。

■「あの人は、いい人ですかどうですか？」の占い心理学的解決法

これも答えが決まっています。占いは関係ありません。生年月日は関係ありません。いい人かどうかは「自分の内面を知っている人」がいい人です。これしかありません。「自分の内面を知っている」「自分はこのために生まれてきました」「自分は生涯かけてこんなことやります」という、しっかりしたものを持つている人はほとんどいません。また、そこまではいつてないけれど、そういう内面を求めて道を求めている人、これもいい人です。

不倫をしても何をしても、仕事で成功しても、仕事で失敗しても、道を求めている人は「なぜそうなったのだろう」と発想します。それを通して自分はどうな役目があるのだろうか、いつも考えています。こういう道を求めている人

はいいい人です。いろいろあったとしても必ずのぼってきます。そして頂点にたどりつきます。道を求めている人は必ず、頂点に行き着くと寛大になります。というのも、道を求めている以上やってはいけないこともやってしまっし、いろいろと成功と失敗を経験するからです。自分自身が成功と失敗を繰り返しているのです、他人の失敗に寛大になっていくのです。他人の失敗を許せません。だからいい人です。自分の内面を知りたいと思っている人、道を求めている人を別の見方では「宗教的な人」といいます。

間違えないで欲しいのですが、宗教組織に入っている人が宗教的な人ではありません。逆です。宗教団体に入っている人で、宗教的な人は実はあまりいません。宗教の組織に依存している人ばかりで、自分の内面が何なのかを知っている人はいません。宗教の「宗」は己の道を示すということです。示

された己の道を知らないのは宗教的な人ではありません。それで道を求めている人は、勉強するにしても学問するにしても動機が違います。自分の名譽のためには勉強しません。「この学問をすると人の役に立ちそうだ」という気持ちがあるから勉強するのです。道を求めている人は他人のために勉強します。新しい技術を修得する場合も、人のために修得します。資格もそうです。弁護士の資格をとるのも人のためにとるのです。自分のためではありません。ですから、人を判断するときの「いい人」かどうかを判断する場合、まずその人が道を求めている人かどうかをみるのがポイントです。「自分の内面は何なのか？」を求めている人はOKです。

■「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」の占い心理学的解決法

続いて、定番のタイトルです。これも非常に多い質問です。これも答えは

決まっています。答えは決まっていますが、納得しないお客さんが多いです。

実は、このテーマは子供の教育と同じです。心をつかむというのは、子供の心をつかむのと同じです。その答え決まっています。「あの人を信じてあげる」これだけです。子供を育てた方は、実感としてある方もいると思いますが、子供との信頼関係はどこまでも子供を信じてあげることが大事です。

例えばテストで0点をとってきた。「それでもあなたを信じるよ」「学校の勉強はできないかもしれないけど、こんないところがあるんだから大丈夫だよ」と信じてあげるので。あるいは学校でいじめられて帰ってきてても「でも○○ちゃんはこんなにいどころがあるんだから、お父さんとお母さんは信じてあげるよ」と周りの誰もが信じなくても信じてあげのです。

自分の都合のいい部分だけを信じるではありません。ある時、ある男性から「片思いの彼女が、ある男と一緒にホテルに行ってしまった。どう

したらいいのでしょうか？」と相談がありました。よくよく話を聞いてみると、相談者の心には「自分が認めることのできない変ちくりんな男とホテルにいった彼女を信じられない」という、口には出さない思いがありました。つまり認められないのです。自分が認めていないあんな男とつきあった彼女を認めない、信じない、ということなのです。しかし、自分の都合のいい面だけを信じるのでなく、自分にとって都合の悪いこともまとめて信じてあげることが本当の「信じる」ことなのです。

・「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」 四柱推命的応答話法

比肩、「あの人は一人ぼっちが嫌いです。寂しいのが嫌いです。だから一緒に行動してあげなさい」

劫財「あの人はパワーがあるので、好きなことをやりたいと思っています。だったらあの人の好きなことにつきあつてあげなさい」

食神「あの人はのんびり飲んだり食べたりしたいと思っています。それなら、あなたものんびり食べたりしてあげなさい」

傷官「あの人は感性が非常に鋭く、シャープな頭脳を持っています。そのため大体コンプレックスを持っています。コンプレックスを抱えていますから、どんどん誉めてあげなさい」

偏財「あの人は社交性があります。つまり社会の役に立ちたいと思っています。社会の役に立ちたいと思つているので『あんなことできるね!』とか言っ

偏印「あの人は楽しいことを求める星ですが、ただ楽しいことを求める動機が、大体が過去において何か悲しいことを背負っています。だから悲しみを忘れようと楽しいことをやろうとします。だから一緒に楽しいことをやってあげればいいのです」

印綬「あの人は甘えたい、わがままいたいという子供です。だから甘えさせてあげればいいのです」

結論は「あの人を信じてあげる」ということですが、その前にまず自分で自分を信じられることが必要です。「自分は安心だ、自分は大丈夫だ」という自信がないと、人を信じることはできません。ですから、さっきのテーマの

ような質問が出てくるのは、その相談者が自分を信じてないという証拠です。結局、自分を信じてないのです。

■「略奪愛は罪なのか？」の占い、心理学的解決法

次のテーマは、最近非常に多いテーマです。奥さんがいる彼氏、旦那さんがいる彼女との恋仲についてです。「略奪愛は罪なんでしょうか？」こういう質問が多いです。まず、こういう言葉（略奪愛）自体が二分思考の罠に引っかかっています。奪う側と奪われる側を分けています。正義か罪かを分ける、被害者と加害者を分ける発想です。もう、この時点でこういう質問をしてきた人は不幸なのです。ハッピーではありません。そういう分ける思考を溶かさないといけません。しかし溶かせとって溶けるものでもありません。ではどうすればいいのでしょうか？

回答は「奪いたいなら奪いなさい」です。「奪ったらどうなるんですか？」と質問されたときの答えも決まっています。「そういう結果を心配するのならやめなさい」です。つまり、質問がずるいのです。問題は自分の行動に責任を持つかどうかです。自分の行動の全ての結果に責任を持つなら実行してもいいのです。何をやってもいいのです。ところが「責任持たない」という思いや「責任持ちたくない」という思い、「何かあった場合、結果は自分のせいじゃない他人のせいだ」と考える、こういう発想が凶なのです。

こういう質問をしてくる場合、決意を固めて「やる！」と相談にくる人は「不倫によって自分の家庭が崩壊する。それはそれでしょうがない。好きになっただんだから。相手にもばれる。自分の家族にもばれる。ばれてもいい」と腹をくくっています。そういう全てに責任を持つ状態であれば吉です。

意外とそういう腹を決めた人や、行動に責任を持った人の結果はうまくいっ

ています。うまくいっているというのは、結果的に誰も傷つかずに済んでいます。不思議です。ところが、結果に責任を持たない場合、すなわち、ある相談者に好きな彼氏がいて「彼の奥さんは非常に悪い奥さんで、彼が可愛そう」とか、他人を非難するような言い方や、結果に責任を持ちたくないという発想の人が不倫を実行すると、だいたい結末は凶となっています。

普段の生活をみればわかります。うまくいかなないことがあつた場合、何でも他人のせいにする人がいます。仕事があまくいかなないときに、上司が悪い、部下が悪い、景気が悪い、円高だ。他人のせいにするは全て凶です。こういう人はうまくいきません。うまくいかないというのは、奪った人の心はどうなるかという、奪った結果、「本当はもっと幸せになるはずだったけど、幸せになつてない……」と不満を言うようになります。奪われた人も「パートナーの裏切りは許せない」と、こんな感じの結末にだいたいなつてます。人のせい

にしています。今回の愛情問題だけでなく、もう生まれてからずっと今日までの生活習慣が、うまくいかないことを他人のせいに行っている人は結果が常に凶になります。うまくいかないことを自分のせいだと考え、「自分にミスがあるからだ」といつも思っている人は、たとえ奥さんが奪われた場合であっても「ああ私のパートナーにはあの人が必要なんですわね」という感じになって、奪われた本人にも新しいパートナーができたりするのです。不思議なものです。うまくいくのです。

だんだん占い心理学がみえてきましたか？相談者のほとんどは、うまくいかないことを他人のせいに行います。そして逆に、ものごとがうまくいって成功した場合、成功したのは誰のせいかというと、自分の努力でうまくいったというのです。そうではなく「うまくいったのは人様のお陰」「自分だけの

努力だけでは無理だった」「他人の協力があったからうまくいった」と、こういう発想が普段からできている人は、だいたい何をやってもうまくいきます。たとえ世間から見れば奥さんのいる彼氏を奪った。あるいは旦那のいる奥さんを奪ったとしてもうまくいってしまうのです。占い師、占いかウンセラー、占い指導員などは、お客さんをこの状態にもっていくことです。「もし、うまくいったとしたら、あなたの努力もあるけど人様のお陰だよ」と相談者に発想させる癖をつけることです。結果がうまくいかない場合でも、絶対に他人のせいにはしない、「うまくいかないのは全部自分の責任ですよ」「全ての行動に責任もちなさい!」と結論づければ、必ずお客さんの波動が上がります。

「前世と現世、仕事と結婚」の占い心理学的解決法

■「この恋に飛び込んでもいいですか？」という相談

とにかく相談者には、どんなケースであったとしても、最終的に自立と安心感を与えなければいけません。それが占い師、占いカウンセラー、占い指導員の目標です。ですから、この質問への答えも決まっています。生年月日は関係ありません。結論から言いますと、「相手を信じるなら飛び込みなさい。相手を信じられないならやめなさい」です。この答えの大前提として「相手を信じられる人は、まず自分を信じている」ということがあります。「自分でOKだ」「自分の抱えるリスクはOKだ」「たとえ失敗してもなんとかなる」といった自信があります。自分を信じている人は、相手も信じられますが、逆に「あ

あ、ああなったらどうしよう、こうなったらどうしよう」と自分を信じられない人は相手も信じられません。

自分を信じられない人へのアドバイスは、嫌でも無理でもいいから「とにかくやってみなさい」しかありません。結果はどうでもいいのです。結果がどうあれ、いろいろなことを通して、自分の内面の発見につながるのです。今の時代は、自分一人で座禅組んだり滝に打たれたり、山にこもって修行しながら自分の内側を発見する時代ではありません。他人との人間関係によって、初めて自分の内側が発見できる時代なのです。だから、どんどんやりなさいということなのです。自分の内側の発見のために、その恋を経験することが必要なのです。

・四柱推命的応答話法

男女の相性を見るときは、正法では「通変星が比肩だったらこうで、劫財だったらこう」という話しをしますが、実際の相性では使えません。実際に四柱推命理論では最高の相性だった妻と離婚になったのは筆者自身が断言できます。正法では、自分と相手の日干同士に通変星を出して鑑定しますが、このパターンに縛られると相性は分かりません。日干と月支元命をみてもいいのです。月支元命と月支元命をみてもいいのです。月柱天干と月柱天干をみてもいいのです。年柱天干と年柱天干をみてもいいのです。何十パターンもあるので、自由にその場をつくって下さい。では『この恋に飛び込んでもいいですか?』を通変星で説明します。

比肩「あなたに、いきいきとした生命力が湧いてきているなら、飛び込みなさい」

劫財「あなたは、とにかく恋に集中、熱中しないといけません」

食神「あなたは、ゆったりまったりとした恋の交わりを味わってみなさい」

傷官「あなたは理屈っぽい人ところがあります。相手を傷つけたり、相手から傷つけられたりしますが、傷つけあいながら愛し合ってみなさい」

偏官「あなたは革命、改革の星ですから、この恋によって自分の人生の課題が発見できるから経験してみなさい」

正官「あなたはとにかく相手を助けてあげなさい」

偏印「その恋によって、あなたの精神世界が広がるので経験してみなさい」

印綬「あなたはお母さんの星ですから、甘えさせてあげなさい」

このように説明すればお客さんに安心感を与えることができます。

■「恋によって何を学ぶのか？」

ちよつとタイトル変えてみます。お客さんは「恋がうまくいきますか？うまくいかないですか？」とよく聞いてきますが、正面から答えないで「あなたはその恋によって何を学ぶ必要があるのでしょうか？」とお客さんの頭を切り替えて下さい。相談者の四柱推命の通変星を出して、その恋によって学

ぶべきものを言っただけであればいいのです。そして、命式のどこを観るかですが、まず相談者を十分くらい観察していけば、だいたいの性質がわかります。月支元命が作用している人、月柱天干が作用している人、年柱天干が作用している人、時柱天干が作用している人、だいたい話を聞いているとこの部分作用しているかがわかります。その部分を言っただけがいいのです。それでは『恋によって何を学ぶのか?』を変通星を使って説明してみます。

比肩「あなたはその恋によって自立することを学ぶのです」

劫財「あなたは自己主張が強すぎて、必ず恋人とけんかになります。意見の違いは生まれ育った環境、家庭環境に大きな原因があります。これが意見の違いになることが多いです。あなたとパートナーの生まれ育った環境が違う

と、当然意見や発想が違ってくることを学ぶために、この恋が必要です」

食神「あなたは友好関係が恋によって広まることを学びます」

傷官「あなたは感性が鋭くシャープです。正直にものを言うことが、どれだけ相手を傷つけるのかを学びなさい」

偏官「あなたは愛したい気持ちと憎らしい気持ちは、実は同じエネルギーなのだ学びます。『好きだ好きだ好きだ』という思いは、ひっくり返るとあつという間に『嫌い嫌い嫌い』になることを体感するのです」

正官「あなたは、たとえその恋で『失敗した、変な人を好きになってしまった』

と思っても、どんな人からも学ぶことがあることを学びます」

偏印「あなたは、この恋によって、より深い精神世界のことを学びます。気がつきます」

印綏「あなたは相手に甘えたい依存したいという、自分自身の依存心に気がつきます」

このように解説しながら、相談者に自立と安心感を与えることがポイントです。

■「結婚生活より仕事を優先させるとどうなる？」 四柱推命的応答話法

次に、「二分思考」の罫にはまると、どんな悩みが発生するか事例をあげて説明していきます。二分思考とは「良い」と「悪い」とを分ける発想です。例えば「結婚生活と仕事を分ける」発想をすると、「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなるのか？」という思いになり、さらに「結婚が優先か？仕事が優先か？」こんな悩みが発生します。実際は、この悩み自体が間違っているのです。本当は、こういう悩みは存在しないのです。結婚と仕事を敵対関係に置く発想のままでは、必ず運が下がります。波動が下がります。うまくいきません。それが、具体的にどううまくいかないかは通変星で表現します。

比肩・他人と比較してから行動するという気持ちでは、何事も自分を見失いがちになりうまくいかないです。二分思考では、職場でもうまくいかないし、

家庭でも人間関係がうまくいきません。

劫財・熱中し過ぎる面があります。職場でも周りの意見を無視して反発される。家庭でも何かに熱中して「私の言うこときかないのね」と反発される。どちらからも反発される。二分思考の脳でいる間はこうなります。

食神・自分が目立ちたいだけになりがちです。家庭生活でも同じように「自分の意見ばかり言つて私のいうこときいてくれないのね」となります。

傷官・非常に鋭い感性を持っているので、他人を批判します。職場では上司、部下、同僚を非難し、家庭では配偶者を非難します、あるいは子供を「勉強ができない」とか非難します。

偏財、「全て任せて」というタイプです。二分思考になると、全部自分でやっ
てしまい部下を信用しない人になります。家庭でも「大きな買い物でも一人
で勝手に決めてしまう」などと反発されます。

正財、何でもコツコツ我慢してやりますが、職場で本当のことが言えません。
仕事の悩み、失敗を上司に相談できなくなり。家庭でも配偶者に言いた
くないことを隠すといった感じになります。

偏官、新しいものに変えるという意味があり、今までのやり方に飽きてしま
います。だから会社では今までの会社の伝統とか、先輩のやり方に飽きて、非
難して勝手に変えようとする奴と思われ。家庭では、安定した家庭の生

活に飽きてしまうようになります。

正官・人に従うという意味があり、会社では嫌な上司に無理に従っている。納得してないまま仕事をやってしまいます。家庭においても嫌な配偶者に、無理に従っている、となります。

偏印・もともとアイデアが豊富にありますが不安定です。職場ではアイデアを出しますが、それがちつとも実現しません。心情的に不安定にもなります。家庭でも「きちんと家事をしてよ、給料を毎月入れてよ」とこんな感じになります。

印綏・学問とか好奇心という意味合いです。「思いつきで仕事やってるんじゃない

ないの？」という感じになります。家庭においても「将来の計画が無い」などと言われてしまいます。

このように結婚と仕事を分けて考えるという二分思考にはまってしまうと、通変星の悪い面が仕事にも結婚生活にも出ると理解して下さい。実際のところ、仕事のできる人は家庭もしっかりしているものです。仕事ができ、家庭が駄目という人を見たことがありません。何故かというと、家庭の面白さ(特に子供から受ける刺激)と、仕事から受ける面白さや刺激とはどっちが強いのか、どっちがより面白いかといえば、明らかに家庭だからです。子供は毎日変化します。毎日進化します。毎日問題を起こしますから、その対応を考えていると非常に面白くて刺激的なのです。仕事は組織の中での役割が限られますので、面白さはそれほど強くはありません。こう考えてみると、家庭をしつ

かりできない人は仕事はできません。なぜなら家庭のほうが面白いし刺激的だからです。それを発見できないのに、仕事の面白さや刺激がわかるはずありません。もう少し言えば、仕事の管理ということがありますが、部下とかスケジュールの管理はどこからくるのかというと、実は自分の管理の延長なのです。自分の生活の管理、自分の感情の管理、自分の人生設計の管理のノウハウが、そのまま家庭の管理になります。その延長が仕事の管理、仕事のチーム全体の管理となっていくのです。ですから、仕事ができて家庭が駄目だというのはいえませんが、全てがつかっていません。だから「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなりますか？」という質問自体が間違いなのです。すでにもう失敗しています。仕事も結婚も両方うまくいくか、仕事も結婚も両方駄目かのどちらかなのです。ですから実際の相談を受ける場合、「どっちともうまくいきますよ」と言ってあげましょう。両方うまくできると思わ

せることです。そうしないとお客様の運が下がります。

■「結婚生活より仕事を優先させるとどうなる？」ホロスコープ的応答話法

次に同じ相談を、ホロスコープの中心星（支配星）を使って解説します。アスペクトの一番多い星を中心星、支配星といいます。

太陽・結婚生活にも仕事生活にもエネルギーを注ぎます。注ぐ能力があります。

月・仕事・結婚どちらも情中心。情関係です。結婚生活でも情関係、仕事でも人と人との情関係がよいはずです。

水星・どちらも計画的で手順がいいです。仕事も結婚も中立的です。片一方

が手順よくて片一方が手順悪いことはありません。

火星・闘争心ですから、仕事では戦いでやりますから、競合他社と戦って実績を出せます。勝てます。そして家庭では戦いではなくて、これは性欲ととります。性欲が満足できるきちんとした家庭生活です。

木星・信頼とか信用です。会社では信頼・信用があり重宝されます。家庭でも配偶者や子供から信頼されます。

土星・困難とか苦勞の意味合いです。仕事・結婚どちらも楽ではありませんが、苦勞を楽しむに転換できるはずです。人間が、楽しいと思う瞬間というのは「ちよつと自分自身が成長したな」と感じる瞬間です。家庭でも配偶者や子供

を通して人間的に成長します。仕事でも苦勞を通して成長します。

天王星・ひっくり返すという星です。仕事で上司の意見に反発して、今までのやり方をまるつきり変えたりして反発されますが、新しいことをやります。家庭においてもちよつと普通の家庭ではないことをやります。仕事でも結婚でも新しい何かをやります。

海王星・夢みる星です。仕事は大きな夢を抱いてやります。家庭でもロマンチックで楽しい家庭を築きます。

冥王星・強引です。仕事では、あなたしかできないことがあります。そういう仕事をまかせられたら多少強引にやってもOKです。家庭ではやはり、あ

なたしかできない強さが求められることがあります。そのときにはあなたの能力が生きます。

相談を受ける側は、決して「結婚生活と仕事、どちらがその人には向いているか？」と発想しないことです。両方がいいか、両方とも悪いかのどちらか一方です。ですから家庭も仕事も両方よくしてあげることです。結論は「仕事と結婚どちらもよくしてあげる」と確信して、占いを上手に使ってアドバイスして下さい。

■占い専門家がはまるワナ

運命学や占いで、ある型とかパターンについて説明すると、それがまるでただひとつの真理のように、型に固執する場合が多くみられます。型にはまってしまうことがどれだけ、恐ろしいことなのか？ちよっと目線を変えて日清・

日露戦争のときの戦術を例に「型」について説明します。戦争の「型」が生まれたのは、日清・日露戦争のときです。型の無かった時代に秋山真之が型を発明しました。当時は軍艦の保有数、兵の数などの物量で日本は圧倒的にロシアに負けていました。「弱者の日本が強者のロシアにどうすれば勝つのか？」というところから型や戦略を発明しました。日露戦争の日本海々戦では秋山真之率いる海軍が、ロシアの戦艦を全部沈めてしまいました。大勝利しました。このときに一つの型を発明して大勝利したのはいいのですが、これ以降、日本軍全体が、型に固執するようになってしまいました。そのため軍人はどういう人が出世するかといえば、型を多く暗記した人間が出世するようになりました。いわゆる秀才です。こういう人が軍隊で出世していききました。なんとなく今の日本の官僚制度に似ています。東京大学の法学部に入って国家試験の上級に通って官僚になるという、このパターンの最初の事例です。型を

多く暗記した者が参謀官になるのが、習慣化しました。

これを心配したのが型を發明した秋山真之本人でした。真之は「型が生まれ、型に固執するとやがて型とともに滅びる」と言つて死にました。そして日本は型によつて滅びるだろうとも予言しました。アメリカ相手と戦争するかもしれないともいいました。なぜかというところ「型に固執して戦争をやれば勝てるんだ」と傲慢になつているのがわかつたからです。「日本は神の国だから負けない」という信仰みたいなものが産まれていたので、それを真之は心配したのです。日露戦争に勝つたのは、弱者の日本が強者のロシアにビクビクしながらも必死になつて、勝つ戦いではなく、負けなければいい戦いだと思つたうえで、必死に考へて型を生み出して勝つた戦争でした。ところがいつの間にか日本は「型を修得しているので勝てる」と傲慢になつてしまい、そのままアメリカ相手にも勝てると思つたとおかしな発想になつてしまいました。

当時この考えをミスリードしたのが新聞です。当時のメディアです。当時の新聞は「日本は無敵」と書いていました。国民もそれを信じました。メディアはいつの世もそうですが、良心を刺激しません。ただ恐怖を煽るだけです。新聞はただ煽るだけ、テレビも煽るだけ。戦争を煽っています。戦争を煽ったから太平洋戦争になりました。日本人は有頂天になりました。実は有頂天になりやすいということは、超悲観的にもなりやすいのです。このことは現在も同じです。「少子高齢化で将来がない」「円高でトヨタが赤字」「消えた年金はもらえない」メディアは悪い情報ばかりを流します。心配や恐怖を煽っているのです。日本人全体が洗脳されています。日本人はこういう特性を持っていることをよく理解して下さい。今のままならば、仮にこれから十年後バブルが来て景気よくなっても日本はまた失敗します。また海外から足をすくわれます。

■「前世でどういうことをしていたのか？」 四柱推命的応答話法

『型が生まれ、型に固執し、型とともに滅びる』を解説したあとで、まったく関係のないと感じる前世の話しをします。とにかく前世とか言うのと、過去の出来事なので、変えられない宿命と思われがちで、不安と恐怖を抱く人も多いです。しかしどんな場合でも、お客さんには不安と恐怖を与えない回答をしなければいけません。安心と希望を与えなければいけません。もし不安と恐怖を与えてしまうと、相手は本当にその通りになつてしまうからです。テクニク的には、前世を見る場合、四柱推命の年柱の天干の通変星をみると当たります。ただこれも一つの型なので、このとおりにやらなければいけないものでもありません。皆さんが独自に発明してもかまいません。通変星は価値観をあらわすので「あなたが前世にどんな価値観で人生を歩んできたか」

が答えとなります。では具体的に説明していきましょう。

比肩・前世のあなたは独立と競争に明け暮れた人生ですね、だから現世はちよつと意地つ張りです。独立したり競争したりは当たり前になります。もし相談者が「自分には独立・競争が出来ない」と思っているなら「前世で散々やってきたことだからできますよ」と答えればいいです。

劫財・とにかく無茶苦茶、熱中した人生でした。ちよつと欠点が出ると、やりすぎの一面がありました。もし相談者が「熱中できることがあります」と言えば、「前世でさんざん何かに熱中してきた人だから、そういう何かに出会えば簡単に熱中できますよ」と答えればいいです。

食神・自由と平和を愛します。欠点が出るとちよつとダラダラしてしまうところがありました。「そんなに自由と平和を求めて生きてませんよ」と言われたら、「前世では間違ひなく自由と平和を求めて生きてきたから、このぐらいはやれば当たり前前にはできますよ」と言えればいいです。前世でやってきたことは努力しなくてもできると言つて下さい。

傷官・才能をとにかく周りにアピールした人生でした。そういう感じですから、他人に批判的で心に傷を負わせることがありました。相談者が「そんなに才能ありませんよ」と言つたら「前世では間違ひなく才能があつたんですから、得意な分野があるはずですよ」と答えればいいです。

偏財・とにかく何でもやってみないと気が済まない冒険的的人生でした。反面、

欠点がでると危なっかしい一面を持つ人でした。

正財・誠実で周りから信頼された人生でした。信用ある人物でした。ちよつと欠点が出ると、誠実すぎて慎重になり過ぎるところがありました。

偏官・周囲を巻き込んで改革する正義あふれる人生でした。まわりをどんどん引き込んでやっていきますが、ちよつと好き嫌いが激しい人生でした。

正官・自制心が強くまじめに生きてきた人生でした。しかし、反面リスクを取らずにあきらめたことも多い人生でした。

筆者の場合も正官が年柱にあるので、いわゆる大企業のサラリーマンでも当た

り前にできると思ってます。しかし実際は大企業のサラリーマンを二回、三回と転職しましたので、現実にはできていません。それは大企業の管理職にふさわしい人物が上司にいなかったからです。まことに自分に都合のいい解釈でしょう。それでいいのです。自分の波動、相談者の波動が下がらなければそれが魂的な観点から言うところの正解なのです。いい上司がいないといいサラリーマンはできません。いい課長いい部長がいて、はじめていいサラリーマンとしてやっていきます。しかし筆者が勤めた会社にはいい課長、いい部長がいませんでした。「だからサラリーマンができなかった」と思えばいいのです。何も方程式の発想で「正官があるから大企業のサラリーマン勤まります。しかし勤まりませんでした。じゃあこれは間違ってるんですか？」こういう発想ではダメです。本当は勤まるけど、サラリーマンはいい上司がいないと不幸だから、やめたんだと思えばいいのです。

偏印・好奇心旺盛な人生でした。欠点は夢をみすぎるところでした。

印綬・学問・研究の人生でした。欠点をは誰かに依存した人生でした。

前世を四柱推命的に通変星で説明するならこのぐらいが適当です。

■「前世でどういうことをしていたのか？」四柱推命的十干別応答話法

続いて年柱天干の十干を使って解説しますが、結論は相手に不安と恐怖を与えなければいいのです。そして「**どんな人でも年柱天干のことぐらいは当たり前前にできる**」と思って結構です。

- 甲 曲がったことが嫌いな人生でした。
- 乙 自分が好きな人をサポートした人生でした。
- 丙 夢中になって何かを求めた人生でした。
- 丁 人に優しくした人生でした。
- 戊 忍耐強く生きた人生でした。
- 己 周囲の人と沸きあいあい楽しく過ごしてきた人生でした。
- 庚 自分の信念を貫いた人生でした。
- 辛 試行錯誤を繰り返し、完璧を求めた人生でした。
- 壬 激しい時代の変わり目で、常に先々を読んで生きてきた人生でした。
- 癸 何でも器用に過ごした人生でした。

古典的には日柱天干が「自分」といっていますが、それにこだわる必要はあ

りません。

■「前世でどういうことをしていたのか？」四柱推命的十二運星別応答話法

続いて十二運星を使って解説していきます。とにかく長所と短所を分けて考える発想はよくありません。長所の裏返しは短所ですが、長所も短所もまとめて溶かす発想がないとカウンセリングは難しいのです。長所と短所を分けて考える二分思考は、この二つを敵対関係に置いてしまう発想です。これでは相談に来た人の波動が下がってしまいます。敵対関係の発想だと波動が下がってしまうのです。古典的な四柱推命や紫微斗数推命も皆そうですが、鑑定した結果、五行の強弱を出します。そして喜ぶ神と忌む神を出します。喜ぶ神だと長所が出て、忌む神だと短所が出るといいます。そのため必死になつて、○（マル）×（バツ）や吉凶を出します。しかし、実際は○だから長所

しか出ないとか、×だから短所しか出ないかといえは、絶対にそんなことはありません。長所も短所も両方出るのが人間です。こういう従来の正法では、実際のカウンセリングには全く使えません。それでは、以上の内容を踏まえた上で、十二運星を例に敵対関係にある長所短所を溶かしていきます。地頭を良くする発想の訓練です。

胎・独自のやり方で生きた人生でした。独自の方法でやるので、周りのやりかたは全ておかしいと思ってました。そのため不満が多くなった前世だったかもしれません。

養・じっくりと誠実に生きた人生でした。じっくりとやるので時代の変化になかなかついていけなかった前世だったかもしれません。

長生「おだてると、どこまでもやった人生でした。反面、だまされやすかった前世だったかもしれません。」

沐浴機を見るに敏、新しもの好きでたくさんを経験をした人生でした。飽きっぽかった前世だったかもしれません。」

冠帯「ええかつこして、スマートな人生でした。反面、面子にこだわって、損したこともありそうです。」

建禄「文字通り筆を立てるように完璧に無駄なく計算して生きた人生でした。反面厳格すぎたこともあったようです。」

帝旺「はいご飯、はいお茶、はい風呂」というのが帝旺ですから、のんびりと生きた人生でした。反面、一旦勢いがついたら軌道修正ができずに、金銭面では苦勞したかもしれません。

衰「過去の経験を無駄にせずに落ち着いた人生でした。反面、感情表現が乏しかったかもしれません。

病「いつも心配していて非常に目の前の変化に目敏い生き方でした。反面、いつも心配し落ち着かない人生でした。

死「秩序とルールを重んじた人生でした。反面、新しい流れに乗れなかった

ようです。

墓、コツコツと生きた人生でした。反面、古い習慣にこだわりやすく、いつまでも古いやり方でやったようです。

絶、毎日のように変化して夢想的な生き方をしました。反面、安定しないことも多かったようです。

以上の内容を、そのまま暗記するのではなく、あくまでも自分の脳で長所と短所を敵対関係に置かず、溶かして理解することです。溶かしてイメージ的に理解する訓練です。そうでなければ、実際にお客さんをカウンセリングして、プラスの波動にして帰ってもらうことができません。

■悩み自体が虚偽

次のテーマです。悩みが間違っている例について説明します。よくある悩みで「どうしたら結婚できますか?」という相談がありますが、ほとんどの場合、こういう質問自体が間違っています。実際は、結婚したくないから結婚してないだけです。本気で結婚したい人はほとんどいません。例えばフォーチュンソフトでは国際結婚の斡旋もしています。中高年の男性にフィリピンの女性を紹介しています。そこで百人以上の面接をやってきましたが、実際にお見合いまで行こうという人は百人中何人いるでしょうか? だいたい百人いたら五人くらいです。本気で結婚したいなら、交通費を含めてお見合い費用が約十五万です。百人来るなかで実際にお見合いにいくのが五人、その中で実際、結婚までいく人が何人いると思いますか? だいたい二人くらいです。

後の人はダラダラお付き合いはしますが、結婚までいきません。なぜ結婚しないのか聞いてみると、ほとんどの場合「親が反対する」「親戚が反対する」「世間体が悪い」「外国人と結婚するわけにはいかない」と言います。結婚しない理由を他人のせいにするのです。「どうすれば結婚できますか？」と来ますが、本当に結婚したい人は実はわずかなのです。

・フォーチュンソフト社に結婚相談に来た女性の本音

女性の場合も、今まで結構相談がありました。そういう場合、まず当社では「任せて下さい。当社が無料で探してみましよう」と提案します。フォーチュンソフト社のHPは一日に約二百から三百人のアクセスがあるので、月に一万人は見ています。そのHPのトップに「花婿さん募集」と出してあげます。毎月一万人の人がみえます。三カ月で三万人です。三万人みれば「あな

たと結婚したい」という人がでてきますから、そうしたらお見合いしましょう、と毎回提案しています。女性にそのように提案しますが、すると何人が「ではやってください」と言うと思いますか？実は0人です。コスト0円なのに、こちらで写真を撮って、プロフィールも書いて無料でやってあげましょうと言うのに「やめて下さい、とんでもないです」と言うのです。どうしてかと聞くと「恥ずかしいから」と言います。すなわち結婚したくないのです。本当に結婚したいなら腹をくくってるでしょ？「結婚したい！」という腹ができてないのです。腹ができてないのに「ただなんとなく、世間体が悪いから」とか、つまらない理由で質問にくるのです。

ですから占い師、占いかウンセラー、相談者はこういう相談に対して、まともに答えては駄目なのです。ほとんどの場合、悩みがウソです。ウソを見抜くには「やってあげましょう。HPにのせてあげましょう。そうしたら三ヶ

月以内にお見合い相手が現れますから、任せて下さい」と試しに言って下さい。ほとんどの場合、「やめてくれ」といいます。こんな質問にまともに乗ってはいけません。

■「どうしたら結婚できるか？」 四柱推命的応答話法

以上の内容は奇法ですが、正法を使ってまともに答えるとどうなるかを解説します。この場合、通変星は月支元命を見るほうがいいです。もしくは月柱天干でもいいですが、月支元命のほうがいいでしょう。

比肩「あなたは協調性がありませんから、そこを改めると結婚できます。」

劫財「あなたは浪費癖があるので、しっかりお金を貯めれば結婚できます」

食神「あなたはちよつとだらしないので、几帳面な生活をしたら結婚できます」

傷官「あなたは人を批判するので人の悪口を言わないようにすれば結婚できます」

偏財「あなたは社交性がありすぎて、いろんな異性と付き合すぎるので、一人だけの異性にしたら結婚できます」

正財「あなたは少し窮屈な生活をしてますから、もう少し異性に対してオープンに気楽にお付き合いする気持ちになれば結婚できます」

偏官「あなたは、非常に緊張感を相手に与えるので、リラックスして、落ち込んでいられる人に優しく声をかけてあげれば結婚できます」

正官「あなたは、もともと相手につくす星ですから、あなたの身の回りにあなたが尽くしている人がもういますよね」

偏印「あなたは、いろんなことをやりたい快樂主義ですから、ちょっと生活を安定させるようにすれば結婚できます」

印綬「あなたは、学問好きで理想を追い求めるのはいいですが、あまり理想を追い求め過ぎないで、現実をみつめれば結婚できます」

これが正法でのアドバイスですが、これを使っても相手の土俵に乗るだけで相手の本当の問題点はわかりません。最初に説明したように、相談とは「問題点がわからないこと」なのです。結婚できないことが問題点ではありません。「本当は独身でいたい」という思いが隠れているのです。ですから、なぜ相談者は独身でいたいと思うのか、根っこの部分を発見しなければ、その相談は解決はしません。

「占いビジネス」「結婚」「セックス」のお悩み解決

■「どうすれば占いビジネスで儲けることができますか？」

よく占い師や占いカウンセラーなど、人から相談を受ける立場の人から「どうすれば、占いのビジネスで儲けることができますか？」と質問されますが、そのことを解説していきます。

・第一のポイント「嫌だと思つことはやらない」

まず、一番目に気をつけて欲しいのは「嫌だと思つことはやらない」ことです。例えば、ある商業ビルでお店をやつていて、近くのテナントが非常に儲かっているとします。そして、その真似をして自分もやりたくなくなりました。ただその看板のつくり方、音楽の流し方は自分の好みではありません。

また、お客さんを集めているところが霊感的な占いを売りにしていると聞いて「私もそういう看板を真似てやったほうがいいんでしょうか？」と質問

されることがありますが、それでは駄目です。そのことを「好き」と思っていればいいですが、「嫌だ」と思っていれば駄目です。嫌なことをやってはいけません。「嫌だけど・・」と思ったままやってしまうと、嫌な顔や苦しい顔をしてお店にいることになってしまいます。お客さんはそんな嫌な顔や、苦しい顔をしているスタッフのところには寄ってきません。自分が楽しくなるような看板、音楽、雰囲気をつくるのがいいのです。儲かっているからといって、他人の真似をする必要は全くありません。

・第二のポイント「また来たいと思わせる魅力」

次の重要なポイントは「また来たいと思わせる魅力」が必要です。占い師でも占いの盤を出して、それを丁寧に説明すればお客さんが満足すると思っ
ている方も多いと思いますが、実際はそうではありません。お客さん“とい

うのは、自分の質問したい本当の問題をきちんと定義できてない状態で相談に来ます。本当の自分の問題が分からない状態できますから、持ちかける悩みを、そのままストレートに解こうと接客しても駄目なのです。それよりも「この人だったらなんだか知らないけどまた会いたいわ」という魅力を発揮するように努力して下さい。

・第三のポイント「高額商品を一つ用意する」

三番目は意外と思われるかもしれませんが『高額商品を一つ用意する』です。印鑑なら十万円、水晶なら二〜三万円とか、何でもいいですが、高額商品を一つは持っておいたほうがいいです。というのも、人は生涯の中で、どういう人が印象に残るのかといえば、一番印象に残るのは一番高い買い物をした営業マンの顔なのです。筆者の場合、住宅を買ったときの営業マンです。

彼は住宅メーカーを辞めています。未だに顔を覚えていますが、未だに年賀状のやりとりしています。決意して何千万という商品を買って、何十年間もローン組むわけなので、そういう営業マンは記憶に残ってしまうのです。あるいは新車を買ったときの営業マンは皆さんも多分覚えていると思います。ですから、長くつき合いたいと思うお客さんがいる場合、高い値段で売れる自信のある商品が一つでもあるといいのです。

■「いつ結婚できますか？」 四柱推命的応答話法

次のテーマは『いつ結婚できますか？』です。奇法の訓練として考えてみましょう。「いつ結婚できますか？」この答えはわかりますか？ 答えは「すぐにもできません。本当に結婚したいのであれば今すぐにもできません」です。占いを使ってできない言い訳でなく、できる言い訳だけを説明します。具体

的には年運をみます。今年の運、来年の運でもいいですが、すぐに結婚できる根拠を説明したほうがいい場合に使います。

比肩・劫財・周囲からのすすめで結婚ができます。

食神・傷官・気持ちがあるむときなので、今の仕事がひと段落して、ゆるんだときに結婚の出会いがあります。

官星（正官・偏官）・相手から自分が支配されることですから、異性から惚れられる、一方的に相手からよってこられるという状態で、結婚できます。

財星（正財・偏財）・官星の逆です。相手を支配するのですから、自分から異性に寄っていきます。寄って行きたくなつて結婚できます。

印星（印綬・偏印）・一緒にいると楽しい異性があらわれます。楽しい延長で結婚します。

絶対に、結婚できない言い訳はいつてはいけません。続いて、より深い心理的などころをつつこんでみましょう。

■「あなたが独身でいた理由は？」の占い心理学的解決法

タイトルを少し変えて「あなたが今まで独身でいた理由はなに？」というテーマで解説します。「独身でいた」という理由も実は答えは決まっています。答えは「独身でいたいから」または「独身のほうがいいと思ってるから」です。独身のほうがいいと思ってるから独身なのです。もう少し心理的に説明します。独身がいいということは、同じ屋根の下で誰かと暮らす共同生活に自信がないということです。この共同生活に自信がない思いを突き詰めると「相手の言葉とか、行動を許せない」という思いがあつて、それが無意識に不安

につながっているのです。更に、相手を許せないということは、最後には結局、自分自身を愛せてないのです。

自分が許せないのは、はつきりいって自分が嫌いだからです。自分が好きではないのです。自分が許せません。今の自分が許せません。自分が許せないから相手も許せません。相手の欠点を認められないから独身がいいのです。ですからこの相談には「自分が嫌いな理由」を占いを使ってカウンセリングするとという手法を使います。まれに、こういうパターンでなく、仕事を立派にやりすぎて成功しすぎて権力を持ってしまった人（特に女性の場合）、自分のスタッフを持ってしまい自由自在に組織をコントロールできる場合は、この権力の甘い罠にはまってしまい、独身のほうがいいというケースもありますが、これは今回のテーマのパターンには入りません。

例えば三十代半ばになってスタッフを四・五人かかえ、スタッフを自由自在

に支持して実績をドンドンあげていくと組織のトップに認められます。結果、権力も持ってきます。その気持ちよさや感覚を味わってしまった人は、今更結婚という気になりません。こういう人が稀にいますが、ただそういう人は占いかウンセラとか占い師には絶対相談に行かないですし、占いのなものにも関心を持ちません。自分に自信があり、今の自分自身で満足しているからです。

・「自分が好きになれない。自信が持てない」の四柱推命的応答話法

では「自分が嫌いになる理由」という悩みを四柱推命の通変星を使って説明します。使うのは月支元命でも、月柱天干でもいいです。その人と話しているうちにわかってきますから、それを使って下さい。（その人の命式にある通変星を使う）

比肩「あなたの持つているのは、やりたいことをやる星です。本来やりたいことをやる人です。やりたいことがあるのに、やる勇気がなかったのでやらなかった、という状態では当然自分が嫌いになります」

劫財「あなたは本来、夢中になって何かをやりたい人です。夢中になって何かをやりたかったのに勇気がなくてできなかつた。そういう自分が嫌いです。自分が許せません」

食神「あなたは本来、楽しくお金を使い、飲んだり食べたり遊んだり人生をエンジョイしたい人ですが、今まで楽しくなかつたのです。楽しめない自分が嫌いなのです」

傷官「あなたは本来、自分の才能を発揮したい人です。当然才能を発揮するので、他人とのゴタゴタがあります。ゴタゴタを怖れて自分の意見や才能を発揮できなかつた場合、自分が嫌いになります」

偏財「あなたは本来、全部自分に任せてほしい人です。そうは思っているけど、会社の上司や周りが自分に任せてくれなかつた。だから今の自分に満足してない。だから自分が嫌いなのです」

正財「あなたは本来、コツコツなんでも計画的に物事をすすめていく人です。ところが、計画的にやりたいのに、なんだか周囲に流されてしまい、計画的な人生を生きてこなかつた。そのことに不満があるから自分が嫌いな

です」

偏官「あなたは本来、融通がきかないくらい一生懸命な人です。一生懸命に何かを変えていきたいと思つています。何かを変えたい気持ちがありながらも、何にも変えてこれなかった恨みがあるので自分が嫌いです」

正官「あなたは本来、自己をきちんとコントロールする人です。ですから、ある程度の社会的地位があつて当然の星ですが、未だに上司から評価されない。誰からも評価されてない。社会的地位もない場合、自分が好きになれません」

偏印「あなたは本来、何でもかんでも関心を持ってやってみたい人です。い

ろんなことに関心があるけど、何もできない、何もやれてない、やってこなかった。そういう不満があるから自分が嫌いです」

印綬「あなたは本来、自由に束縛されずにやりたい人です。ところが実際は、ずっと束縛されてきた人生だった、という恨みがあると自分が嫌いです」

今回は通変星の例で解説しましたが、自分の通変星らしさを出せている人は、そんなに人生に悩みません。通変星らしさは結局自分らしさだからです。人が何と言おうと関係ありません。比肩・劫財なら勇気を出してやりたいことやればいいのです。偏財だったら、全部任せて欲しい思いですから、任せてもらえないなら会社を辞めて自分で会社つくってやればいいのです。それが自分らしさです。自分らしさが出てくると、自分が好きになります。自分

が好きになってくると、相手を許せる度量がでてきます。結局、自分に満足してないのです。自分に満足してないから今までのように独身でいたいのです。これが奇法の解釈です。

■「異性に心を開くことができない」四柱推命的応答話法

「カッコつけてるから」「傷つきたくないから」です。これだけです。無理に自分をよく見せようという思いがあるから異性に心を開けないのです。もつと例えば、本心で異性にぶつかっていけば傷つくかもしれないのが怖いのです。では「なにを恐れているのか？」を通変星でみてみましょう。使う通変星は月支元命でもいいですし、月上の天干、年の天干でもいいです。

比劫「あなたは、人と比べて『勝ってる』そういう気持ちか欲しい人です。

欲しいけど、人と比べて自分が劣っている現実がある、これが許せません。それでも異性に心を開いていきたいと思うなら『人に勝ちたい気持ちはあるけど、実際は勝ってない自分だ。』だけど、そんな自分を許すことです。」

食傷「あなたは、言葉が巧みです。人を楽しませたい欲求がありますが『うまく人を楽しませることができない』という思いがあります。そういう自分を許すのです。」

財星「あなたは、人を支配するとか、抑える、コントロールしたいという欲求があります。なぜなら、その人の抱えている気持ちがなんとなく分かるからです。『人の欲求に答えてあげよう』という欲求があるから、結果として支配するようになります。そうした場合、相手の反応が怖いのです。例えば異

性をみて『これを困ってるな、じゃあなんとかしてあげよう』とズバツと入っていくと、異性から『あんた何するのよ』と反発をされるのが怖いのです。』

官星 「あなたは責任感、常識、世間体、こういうものに敏感です。こういう価値観があるので異性の前に立つとどうしても緊張してしまいます。特に男性の場合、女性に対して『女性と付き合う以上、責任をとらないといけない』と思ってしまいます。ある程度役職のある人では『世間は自分をどう見るの?』と世間体が気になってしまい、素直に異性に心を開けません。」

印星 「あなたは、自分の欠点を隠したい欲求が非常に強いです。印星は人気星といわれます。まわりから好かれないと思っっています。『好かれてなんぼ』という価値観を持っている人が、素直に自分を出してしまうことは、欠点を

出してしまうことにもなります。だから欠点を隠したくなります」

■「片思いの状態から脱出したい」四柱推命的応答話法

片思いの状態から脱出したいということですが、まずこの言葉が駄目です。「片思い」と「両思い」この二つは敵対する言葉です。敵対関係の発想が頭にあるうちは何やつてもうまくいきません。自分が片思いか、両思いかを分けて考えているということです。すなわち「両思いでなければならぬのに、自分は片思いだ」という脳が敵対関係の状態なのです。実際、片思いの相談を受けてみると「なぜ相手は自分のことを好きにならないのでしょうか？」というセリフをよく聞きます。その人の心理状態は、「自分は相手を好き」です。これはいいでしよう。単純に好きだから。

ただ相談者の気持ち突き詰めてみると「自分が相手を好きだから、相手

も自分を好きにならねばならぬ」という気持ち根底にあるのです。これが非常に恐ろしい発想なのです。ですから片思いの相談に来る人は、実は非常に恐ろしい人なのです。本当のところは「超エゴ」の人が相談に来ています。自分が相手を好きだから、相手も自分を好きにならなければならない、という気持ちがあるからです。

結局これは「自分は相手の心を支配したい」という相談なのです。とんでもないことです。こういう悩みを持つ人は、相手の立場に立つて考えることができない人がほとんどです。つまり、こういう片思いの状態の人は、相談に来た時点でだいたいエゴイストと結論つけて間違いありません。ですからエゴイストが相談に来たということです。心の一番深い根っこは相手の心を支配したいと思います。ところが、こういう相談者のエゴをズバッと切つてカウンセリングできる人は、実際にはあまりいません。ですから一般的な占い

師としては、それとなく適当にカウンセリングして帰ってもらう程度でいいのかもしれない。その場合の便法を通変星を使って説明します。

比肩「あなたは、もともと異性とはフレンドリーですから、仲良くできるはずです」

劫財「あなたは、もともと刺激的な恋愛がお得意ですから、そのまま頑張れば何とかかります」

食神「あなたは、もともと世話好きですから、その人をいろいろとお世話してみたら何とかかります」

傷官「あなたは、相手の欠点を必ずみていますから、その人の欠点をサポートしてあげれば何とかなります」

偏財「あなたは全部俺に任せろという個性の持ち主ですが、片思いの悩みを持つていること自体、偏財らしい個性が出てないということです。ですから、もっとあなたの個性を出していけば何とかなります」

正財「あなたは、もともと誠実なタイプですから、まずはお互いに尊敬し合うところから始めれば何とかなります。お互いにいいところを認め合いましう」

偏官「あなたは、何かに従いたいタイプですから、相手からいろいろと教え

てもらえば何とかかります」

正官「あなたは、相手が尊敬できる人なら盲目的に従うことができるので、相手に完全に従っていけば何とかかります」

偏印「あなたは、ユーモアたっぷりですから、あの人にそのユーモアで接すれば何とかかります」

印綏「あんまり考え過ぎないで大らかに、好き嫌いを抜きに楽しく接すれば何とかかります」

片想いの相談については、相談者が来た時点で「エゴな人が来た!」と思っ

てください。自分が相手を好きだから、相手も自分を好きにならなければいけないという人、相手を支配したいという動機の人が来たと判断して下さい。

■「異性からあなたはどう思われているか？」 四柱推命的応答話法

「好きな人から自分はどう思われていますか？」という質問です。こういう心配と不安の心理を持っている人には、まず、とにかく安心と自信を与えなければ駄目です。不安と恐怖を持つて以上、はつきりいつて異性から嫌われます。ですから相談者に安心と自信を持たせればいいのです。ですから答えは決まっています。『異性からどう思われていますか？』という、その思い自体が駄目なのです。今のままのあなたで充分魅力的じゃないですか、男らしいですよ。かっこいいですよ。女らしいですよ。かわいいですよ」と言っ

てあげればいいのです。そうやって安心と自信を与えてあげればいいのです。占いで生年月日を出して、あなたは異性からこう思われていますよと、まともな答える必要はありません。安心と自信を持てば自然と異性からもてますから、まずいいところを誉めてあげることです。これを通変星の例に説明していきます。

比肩「あなたは目上に対してもはつきりものをいいます。そこがあなたの魅力です」

劫財「あなたは見た目は非常にソフトに見えますが、実際は負けず嫌いです。その負けず嫌いところがあなたの最大の魅力です」

食神「あなたはとてもおおらかです。そのおおらかさがあなたの最大の魅力です」

傷官「あなたは非常にシャープな感性を持っています。それがあなたの最大の魅力です」

偏財「あなたは社会と積極的に関係を持つていこうとします。社会性や社交性があなたの最大の魅力です」

正財「あなたは非常にまじめなタイプです。約束したことは100%きちんと守ります。そこがあなたの最大の魅力です」

偏官「あなたは古いものを破壊して、新しい何かを創り出します。そこがあなたの最大の魅力です」

正官「あなたは目上に対しても目下に対しても、きちんと目配りができる礼儀正しい人です。それがあなたの最大の魅力です」

偏印「あなたは発想そのものが変わっています。その非凡なところ、ユニークさが最大の魅力です」

印綬「あなたは、いつも新しい知識を求めている非常に好奇心の強い人です。それがあなたの最大の魅力です」

同じテーマ「異性からあなたは どう思われているか？」を十千で解説します。

甲「あなたは理屈っぽいところがあります。もうちょっと緊張を解いて、心から笑ったり悲しんだりしたほうが魅力的です」

乙「あなたは細かいところまで気を使っているいろいろ大変ですね。でもそういう細かいところに気を使うのがあなたの魅力なのです。」

丙「あなたは体の中に非常に熱い血が流れています。それがあなたの魅力です」

丁「あなたは何でも丁寧にゆっくりきちんとやるタイプですね、それがあなたの最大の魅力です」

戊「あなたは非常に頑固でなかなか自分の考えを曲げないですが、何より人との信頼関係を大事にしますね。それがあなたの魅力です」

己「あなたは泣いたり笑ったり悲しんだり、非常に忙しいタイプです。感情を表に出してワーワーしますが、それがあなたのためにも素敵な魅力です」

庚「人の言うことを聞かないタイプなので、相談者として来ることは実際は少ないですが、もし来たら「あなたの人の意見を聞かない強さがあなたの魅力なのです」

辛「あなたは非常に感性が鋭いタイプです。打てばカーンと響く豊かな感性

があります。それが素敵な魅力です」

壬「あなたはいつも時代の流れを見て必死になって頭を使っています。それがあなたの魅力です」

癸「あなたは周囲の人から常に愛されます。人から好まれる性格をしています。それがあなたの魅力なのです」

自信と安心を与えて帰ってもらうことが重要です。

■ 「セックスの相性」 占い心理学的解決法

はっきり言って肉体の相性というものはありません。実際に相談を受けてカウンセリングしていくと、本当の意味で肉体の相性で困っている人はまずいません。本当の問題は、パートナーと本音で会話してないところにあります。例えば男性の場合、セックスのときにパートナーに「ああして欲しい、こうして欲しい」といような要求をすることがあります。自分の気持ちを正直に言っているのだから、これは非常にいいことです。ところが女性の場合、パートナーに対して要求しにくいと思う人が多いのです。ところが、その状態が長い期間続くと、「体の相性、肉体の相性、Hの相性が悪い」と思うようになってしまうのです。つまり自分の正直な肉体の欲求をパートナーに伝えていないのです。言っていないだけなのです。

・肉体の欲求を伝えられない女性の悩みを解決するには？

こういう状態の人には、肉体の欲求があれば「あそこを触って欲しい」とか「いきなり結合に入らないで欲しい」「ああして欲しい、こうして欲しい」と具体的に欲求を口に出して言いなさいといってもなかなか実行しません。そういう場合、どういうアドバイスをするかというと、仕方がないのでセックスの結合時間を三時間以上取りなさいといいます。結合して運動するだけがセックスというわけではないですから、ただくっついていていいのです。ただくっついていてだけの状態を目標にしなさいといいます。そうするとまず体の緊張が取れます。体の緊張が取れ、心の緊張も取れ、お互いに一体となつて会話が始まるのです。例えば三時間もじーっと結合して一言も話さないまままでいることはまずありません。何か会話が始まるのです。完璧に心が解放された状態の本音が言いやすいのです。ですから「三時間以上時間をかけてセックスすると大体の問題は解決する」とアドバイスします。セックスの相

性は四柱推命の通変星を使ってアドバイスできるのですが、この場合、二人の生年月日から通変星を出します。出し方は日干を使ってもいいですし、セックスの相性なので日支と日支でもいいです。または日干と日支でもいいです。とにかく通変星を出してみます。

比肩、「あなたは、もともと人間関係に緊張感の無いほうです。ですからベッドでも友人のように何でもリラックスして話ができるはずですよ」

劫財、「あなたは刺激を求めますので、ちょっとアクロバティックな体位を試してみるとか、いつもと違ったことをやってみるといいでしょう。ベッドでの刺激を工夫してみたらいいですよ」

食神「あなたはサーブしたり、されたりが好きです。相手に『何かして欲しいことない?』とたずねてみるといいでしょう。あるいは逆に『こんなサーブしてよ』と要求してみたらいいのです」

傷官「この星を持っている人は大体の場合コンプレックスを持っています。ですから、あなたは欠点を相手にさらけ出してみたらいいです」

偏財「この星の象意はお互いに支配されたり、支配することです。ですから、あなたはセックスの場面でもやってみたいこととか、やられてみたいことがあるはず。それを口に出して言ってみたらいいのです」

正財「この星は全部相手にゆだねてみる関係なので、あなたは『頭のとっぺ

んから足の先まで全部相手の自由にしてもいいよ』とゆだねてみたらいいでしょう」

偏官「ちょっと人との関係に無理や緊張感が発生してしまう場合があるので、あなたか相手のどちらかが、何か嫌がつてないか聞いてみる事です。『あれしていい?』『これしていい?』『嫌じゃない?』その都度、確認してみたらいいでしょう」

正官「あなたは、ちょっとまとも過ぎます。理性的過ぎるところがあるので、もっとバカになってみる事です。理性とか常識とかを解放してめちゃくちゃやってみる事です」

偏印「もともと快樂の關係です。ですからあなたは脱日常の世界が好きです。生活臭がするような環境では燃えないので、普段とは全く違うような環境を留意して楽しんでみることです」

印綏「どちらかが受身になりすぎる傾向があるので、あなたは我慢しないで自分から攻めてみるといいでしょう。ただし黙って攻めるだけではよくありません。『あれしたい、これしてみたいけど、いいですか?』と相手の了解をとりながら、攻めてみればいいのです」

・セックスの相性の根源は心情的なもの

セックスの相性の相談で重要なのは、まともに体の相性を四柱推命を使っ

て分析しても仕方ありません。この悩みの一番根本にある問題は、パートナーと本音で会話できていないことです。ベッドで自分の本音を出してないことが一番の問題なのです。これは相談者自身、気がついてません。本当の問題に気がついてないのです。その点を踏まえて、占いカウンセラーなどの、相談を受ける立場の人は工夫する必要があります。

また、まぐわい（＝セックスの意味）には、教える側と教えられる側があります。これは非常に重要なことですが、教える側は実は女性なのです。まぐわいのとときに、男が一番がっかりするのは、女性が喜んでなかったり、満足していない場合です。体が反応してない場合も同じです。男はがっかりしてしまいます。

・女性が喜ばないまぐわいはしないほうがよい

ですから力づくで女性をレイプしたとしても男は絶対に満足できないのです。むしろ寂しさや孤独な想いがどんどん沸いてきてしまい、またレイプしてしまうのです。レイプする人は絶対に満足しないので、次から次へとレイプを繰り返すのです。それほど、まぐわいにおいて、女性が喜ぶことは非常に重要なことなのです。女性が喜ばないまぐわいは、しないほうがいいのです。ところが女性が喜んでいるのか、満足しているかどうかは、男から見ると非常にわからないものです。表情とか体の反応だけで判断するしかありません。ですから具体的に言葉に出して、「今回は百点」「今回は八十点」「今回は四十点」とか点数が出てくればわかりやすいですが、点数がでてこないで男はわからないのです。だから男は教えられる側なのです。

勘違いしないで欲しいのは、男性関係が多い女性でなければ男を教られないというものでもありません。テクニツク的なものを教えるということでは

ありません。今、自分がどのくらい満足しているのかを教えることができればそれでいいのです。だから要するに、変な我慢をするなどいうことです。男が欲情して仕方ないから、女性は下になって我慢して射精を待っている、これが最悪です。

女性は我慢してはいけません。単に我慢して、下になってただじーつと「早く終わってくれないかな」と思っただけで目を閉じて待っている状態では、女性をどんどん不感症にしていけます。例えば「挿入が早過ぎる」「動き過ぎる」「運動会じゃないんだから、もっとゆっくりできないの!」と言えればいいのです。「ゆっくり丁寧にできないの」「あまり強くしないで」と言えればいいのです。自分の言葉で満足してないことを伝えればいいのです。

そうすれば男は「ああ今の行動は彼女を満足させてないんだな」と思います。

そして男は考えて工夫します。「あれはどう？これはどう？」といろいろ試しますので、結果、駄目なら駄目と言えはいいのです。一番いいのは「それ今五十点」「これは百点」のように点数で表現すると、よく分かります。「まぐわい」については経験豊富な男が女性に教えるもののように、本とか週刊誌などのメディアはいつていますが、本当はそうではありません。毎回の行為ごとに男性には、女性の精神構造や肉体構造を教えるもらっているという謙虚さが必要です。ですから、まぐわいときは女性を教師役と思わなければいけません。我慢して「旦那の相手だから」とか「結婚してしまった相手だから我慢しよう」と思っているのは駄目なのです。そういうカップルは必ず破綻します。

■「人生の分かれ道」占い心理学的解決法

占う以前から答えは決まっています。普通占いの正法を使うと、いろいろ

な技法を使って吉とか凶を出して解答します。例えば、命式と年柱が沖すれば運が悪くなっていくとか、正官が来るとよくなる、傷官の運が来れば人間関係で傷がつく、劫財が来ればお金を失う、偏財が来ればお金がまわるとかいいいます。しかし奇法では、こういう解釈は使いません。というも、実際の現実には正法の理屈どおりにはならないからです。実際のところ、それまでの人生で一生懸命、沢山の困っている人を助けてきた人は、どんな運回りの星が来ても自動的にいいほうに向かつて行くのです。逆に困っている人を見ても無視してきた人とか、「困っている人を助けたら損する」と発想する人、損得計算して困っている人を無視してきた人は、どんなに運が来ても悪いほうに行ってしまうです。これは決まっています。占いではわからない部分です。占いと関係ないところで決定されます。

しかし多くの人を助けるといっても、ではボランティアや何か社会奉仕をし

ろというものではありません。例えば、比肩なら比肩らしい人生を歩むことで、自動的に困っている人を助けるようになっていくのです。食神なら食神らしい人生を歩んでいると、困っている人を助けるようになっていくのです。実は全ての人が、困っている人を見ると助けることのできる才能を持っているのです。このことを通変星で解説します。

比肩・劫財 人よりも大きな責任を持つても耐えられます。「わかりました、私がやりましょう」という、そういうチャンスが必ずあったはずです。

食神・傷官 人に喜んでももらえるサービスを実行するチャンスがあるはずですよ。そういうチャンスがあればやればいいのです。

偏財・正財、言われた以上のことをやらないといけません。例えば財星は「なぜ上司が自分に対してそんな指示を出すのかな」と必ず考えます。そして「会社はこういう事情だから自分にこういう指示が来たのか」と理解することができます。ですから指示された以上のことをやって当然なのです。これが困っている人を助けることになるのです。

偏官・正官、今まで「ハイわかりました」と言ってきましたか？たとえ上司から変だと思う命令がきても「できません」というのでなく、「ハイ！やります」と言ってきたでしょうか？官星はこう言える才能を持っているのです。上司は無理な命令をしたと思っただけから、そうすると上司は「ああ助かったな」と思います。つまり困っている人を助けたことになります。

偏印・印綬、いろんな知恵やアイデアを出してきましたか？周りの人を楽しませてきましたか？印星の人はそういうことができるはずです。会社が暗いムードになっているときに、いろんなアイデア出してまわりを楽しませることができます。すると困った人を助けたことになります。

無理をしなくてもいいのです。持って生まれた星を使えばいいだけです。自分らしく生きれば自動的にこうなるのです。自分らしい道を歩んできた人は「人生の分かれ道」でも自動的にいい方向に行きます。